

年報 13

平成 8 年度

1997. 3

山梨県埋蔵文化財センター

年報 13

平成 8 年度

1997. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されましてから、今年度で15年が経過し、この間、当センターが発掘調査を行ってまいりました遺跡は240件を越え、刊行しました発掘調査報告書も120冊以上となりました。これらの内容は旧石器時代から近代に至るまで幅広く、本県の歴史の解明に大きく役立つものと信じております。また、発掘調査で得られた貴重な資料は「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の貸し出し等により、本県の歴史を理解していただくための啓蒙普及活動に県内外で広く活用され、その内容も年々充実したものとなっております。

本書は、1996年度に当埋蔵文化財センターが実施しました発掘調査および試掘調査・分布調査の概要と、遺跡調査発表会等の事業内容を報告するものであります。今年度は、23遺跡の発掘調査と6件の事業にかかる試掘調査を行いました。この中で、高根町清里バイパス第2遺跡から県内で出土例の少ない縄文時代早期中頃の押形文土器が発見されました。また、長坂町酒呑場遺跡からは、国内最古と思われる男根を形作った土製品が住居跡から出土し、大月市塙瀬下原遺跡から縄文時代中期末葉の住居跡と配石遺構群が発見され、縄文時代の精神文化を解明する手がかりとなる発見が相次ぎました。中部横断自動車道関連の中巨摩郡柳ヶ原町十五所遺跡では弥生時代後期の方形周溝墓が9基確認され、隣接する村前東A遺跡では古墳時代・平安時代の住居跡が39軒発見され、当遺跡が該期の大集落であったことが明らかになりました。鰐沢町では富士川水運の要所であった鰐沢河岸跡が発掘調査され、江戸時代の甲府代官所米蔵にかかる御蔵台や、明治から大正時代の富士川運輸会社の倉庫施設等の遺構が発見され、近世・近代の富士川水運の様子が、考古学の立場から明らかにされるものと注目されております。このほか、県内の市町村が実施しました発掘調査においても興味深い遺構や遺物が発見されています。

また、昨年度に引き続き、阪神・淡路大震災の復旧・復興対策に伴って行われた遺跡発掘調査の支援に、小林公治主任・文化財主事1名を4月1日から3月31日まで派遣（兵庫県教育委員会事務局技術員兼務）いたしました。

ここ数年、県内においては年間100件にもおよぶ発掘調査が行われております。開発事業は依然としてその数を増加させ、止まることを知りません。このような状況の中で得られた貴重な資料と引き替えに、多くの遺跡が失われていくことを余儀なくされております。祖先の残した文化遺産のひとつである遺跡を可能な限り守り、未来につなげて行くことが私たちの責務であると確信しております。これらのためにも、本書を有効にご利用いただき、埋蔵文化財の保護をはじめ、啓蒙普及活動に一層のご協力とご理解をお願い致します。

1997年3月

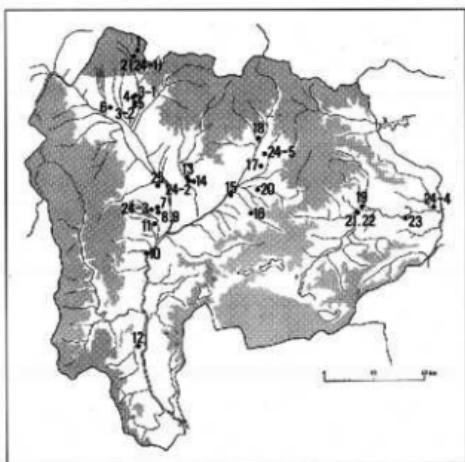
山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚初重

目 次

I	1996年度の事業概要	
1	発掘調査	1
2	整理事業	1
3	発掘調査報告書	2
4	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	3
5	調査研究課課内研究グループ	6
6	遺跡調査発表会	7
7	山梨の遺跡展'97	8
8	第8回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	8
9	調査研究課課内研修	9
10	寄贈・購入図書	9
II	各遺跡の発掘調査概要	
1	清里バイパス第1遺跡	10
2	清里バイパス第2遺跡	12
3	箕輪バイパス関係遺跡範囲確認調査	13
4	横森・横森前遺跡	14
5	宮の前遺跡	16
6	酒呑場遺跡	18
7	十五所遺跡	20
8	村前東A遺跡（Ⅲ区）	22
9	村前東A遺跡（V区）	24
10	鰐沢河岸跡	26
11	宮沢中村遺跡	28
12	梅平本田遺跡	28
13	音羽遺跡	29
14	甲府城跡（県指定史跡）	30
15	石和高校周辺遺跡	33
16	桂野遺跡	34
17	一ノ坪遺跡	35
18	達平バイパス関係遺跡（諏訪前遺跡）	36
19	強瀬北遺跡	37
20	古幡毛遺跡	38
21	大月遺跡（第8次調査I・II区）	40
22	大月遺跡（第10次調査I・II区）	42
23	塩瀬下原遺跡	44
24	八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査	46
25	中部横断道予定地内試掘調査	49
III	県内の概況	
	山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移（グラフ）・1996年度発掘調査一覧表	50

例 言



1996年度発掘調査 位置図

1. 本書は、1996年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2. 本書の編集は田口明子、萩原孝一、村松佳幸がおこなった。
3. 今年度の発掘調査一覧表及び資料の記載は3月末日現在で集計したものである。
4. 第II章各遺跡の発掘調査概要の発掘調査面積の（　）内は調査対象面積である。
5. 左記の地図は1996年度発掘調査遺跡の位置図である。なお地図中の番号は第I章1発掘調査の表に対応している。

職 員 組 織

所長	大塚 初重
次長	穂坂 忠忠
総務課課長	穂坂 忠忠
埋蔵文化財指導幹	森 和敏
調査研究第1課課長	森 和敏
調査研究第2課課長	田代 孝季

総務課		
副主査	一瀬 好史	
主事	矢崎 寛	
主事	中村 紀子	
文書事務員	有楽 百合恵	
業務員	久保川 一三	

調査研究第一課			調査研究第二課		
調査第一担当	副主幹・文化財主事	坂本 美夫	主査・文化財主事	新津 健	
主任・文化財主事	高野 玄明		主査・文化財主事	小林 広和	
主任・文化財主事	村石 麗澄		文化財主事	森原 明廣	
主任・文化財主事	土屋 浩之		文化財主事	保坂 和博	
主任・文化財主事	雨宮 芳夫		文化財主事	萩原 孝一	
調査第二担当	主査・文化財主事	小野 正文	主査・文化財主事	米田 明調	
副主査・文化財主事	保坂 康夫		主査・文化財主事	保坂 一美	
主任・文化財主事	山本 茂樹		主任・文化財主事	三田村 美彦	
主任・文化財主事	川手 昌英		主任・文化財主事	清水 裕司	
主任・文化財主事	熊谷 栄二		文化財主事	石神 孝子	
非常勤嘱託	村松 佳幸		非常勤嘱託	雨宮 信仁	
調査第三担当	主査・文化財主事	八巻 與志夫	副主査・文化財主事	長沢 宏昌	
副主任・文化財主事	小林 公治		主任・文化財主事	吉岡 弘樹	
文化財主事	畠田 智		文化財主事	伊藤 伸一	
文化財主事	田口 明子		文化財主事	笠原 みゆき	
文化財主事	野代 幸和		文化財主事	大庭 慎	
文化財主事	米山 真		文化財主事	宮里 学	

I 1996年度の事業概要

1 発掘調査

今年度は23遺跡の発掘調査と6事業にかかる試掘調査を行った。調査の原因は、道路建設14、建物建設7、公園整備1、河川改修1となる。調査は4月中旬から3月下旬まで行われ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要は、第II章で述べることとする。

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	清里バイパス第1遺跡	16	桂野遺跡
2	清里バイパス第2遺跡	17	一ノ坪遺跡
3	箕輪バイパス関係遺跡範囲確認調査	18	崖平バイパス関係遺跡（諏訪前遺跡）
4	横森・横森前遺跡	19	強瀬北遺跡
5	宮の前遺跡	20	古婦毛遺跡
6	酒呑場遺跡	21	大月遺跡（第8次調査I・II区）
7	十五所遺跡	22	大月遺跡（第10次調査I・II区）
8	村前東A遺跡（III区）	23	塩瀬下原遺跡
9	村前東A遺跡（V区）	24-1	清里遺跡・石室遺跡試掘調査
10	鶴沢河岸跡	24-2	富士見一丁目遺跡試掘調査
11	宮沢中村遺跡	24-3	八田畠遺跡試掘調査
12	梅半本山遺跡	24-4	上野原郵便局遺跡試掘調査
13	音羽遺跡	24-5	伊保水遺跡試掘調査
14	甲府城跡（県指定史跡）	25	中部横断道予定地内試掘調査
15	石和高校周辺遺跡		

2 整理事業

今年度は下記の整理を行った。

No	遺跡名	事業名	発掘年度
1	甲ヶ原遺跡	須玉八ヶ岳公園線建設	1990・1991
2	米倉山遺跡	米倉山ニュータウン建設	1990～1994
3	二本柳遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1992
4	向河原遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1992
5	油田遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1992～1994
6	音羽遺跡	音羽県職員宿舎改築	1992～1996
7	大師東丹保Ⅰ遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1993
8	大師東丹保Ⅱ・Ⅲ遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1993・1994
9	大師東丹保Ⅳ遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1994
10	大月遺跡	都留高校改築	1994
11	酒呑場遺跡	酪農試験場整備	1994・1995

No	遺跡名	事業名	発掘年度
12	岩清水遺跡	風土記の丘曾根丘陵公園整備	1995
13	大林上遺跡	国道141号箕輪バイパス改築	1995
14	海道前C遺跡	国道141号箕輪バイパス改築	1995
15	大塚遺跡	御勅使南工業団地造成	1995
16	一ノ坪遺跡	県営熊野団地建設	1995・1996
17	塩灘下原遺跡	桂川流域下水道終末処理場建設	1995・1996
18	横森・横森前遺跡	国道141号箕輪バイパス改築	1996
19	清里バイパス遺跡	清里バイパス改築	1996
20	古越毛遺跡	県営勝沼団地建設	1996
21	山梨県指定史跡 甲府城跡	舞鶴城公園再整備	1996
22	宮沢中村遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1996
23	村前東A遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1996
24	十五所遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1996
25	桂野遺跡	国道137号黒駒バイパス改築	1996
26	大月遺跡	国道20号大月バイパス改築	1996
27	源助前遺跡	国道140号窟平バイパス改築	1996
28	石和高校周辺遺跡	県立石和高等学校運動場拡張整備	1996
29	梅平本田遺跡	国道52号身延バイパス改築	1996
30	鰐沢河岸跡	富士川改修	1996
31	中部横断自動車道試掘調査	中部横断自動車道建設	1996
32	八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査	八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査	1996

3 発掘調査報告書

今年度は下記の報告書を刊行した。

No	報告書名	No	報告書名
第124集	清里バイパス遺跡	第135集	酒呑場遺跡（第1・2次）
第125集	音羽遺跡	第136集	酒呑場遺跡（第3次）
第126集	石和高校周辺遺跡	第137集	大塚遺跡
第127集	三ヶ所遺跡	第138集	西田遺跡
第128集	十五所遺跡調査概報Ⅲ	第139集	大月遺跡（都留高等学校体育館）
第129集	向河原遺跡調査概報	第140集	山梨県指定史跡 甲府城跡Ⅶ
第130集	油田遺跡	第141集	一ノ坪遺跡
第131集	大師東丹保Ⅰ遺跡	第142集	古越毛遺跡
第132集	大師東丹保Ⅱ・Ⅲ遺跡	第143集	梅平本田遺跡
第133集	大師東丹保Ⅳ遺跡	第144集	甲ヶ原遺跡Ⅳ
第134集	村前東A遺跡概報4		

4 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

番号	申請者	利用目的	貸し出し期間	申請物件名
1	町田市立博物館	「縄文人の造形－土偶と土面－」展に展示	4.16～6.15	金生遺跡出土中空土偶1点
2	茅野市尖石考古館	特別展「縄文のピーナスたち」に展示	4.23～5.24	金生遺跡出土中空土偶(レプリカ)1点
3	山梨学院大学	山梨学院大学創立50周年記念展示会「水晶の歴史展」に出品	5.30～6.4	銚子塚古墳出土勾玉1点、四ツ塚古墳出土切子瓦1点
4	名古屋大学文学部考古学研究室	ソフトX線による形態調査のため	6.7～7.12	寺所遺跡出土土器1点
5	長野県立歴史館	夏季企画展「縄文人の一生～北村遺跡に生きた人々」に展示	6.20～9.15	中谷遺跡出土耳飾りをした土偶(レプリカ)1点
6	相模原市立博物館	特別展「藤坂の民・農耕の民」に展示	7.20～9.8	村上遺跡出土顔面把手付土器1点、安達寺遺跡出土顔面把手2点、岩尻遺跡出土顔面把手1点、上の平遺跡出土顔面把手1点、安達寺遺跡出土猪把付土器1点
7	甲府市教育委員会	土器作り教室の教材として	7.15～12.10	金生遺跡出土中空土偶1点、一の沢西遺跡出土縄文土器3点、一の沢西遺跡出土有孔鈎付土器1点、海道前C遺跡出土顔面把手付土器1点、海道前C遺跡出土石棒1点、安達寺遺跡出土縄文土器1点
8	「縄文まほろば博」実行委員会	「縄文まほろば博」に展示	7.12～12.10	金生遺跡出土中空土偶1点、一の沢西遺跡出土縄文土器3点、一の沢西遺跡出土有孔鈎付土器1点、海道前C遺跡出土顔面把手付土器1点、海道前C遺跡出土石棒1点、安達寺遺跡出土縄文土器1点
9	十日町市立博物館	特別展「縄文の美－火焔土器の系譜」展に展示	9.12～11.10	上野原遺跡出土深鉢形土器2点、甲ヶ原遺跡出土深鉢形土器1点、宮の前遺跡出土深鉢形土器1点、一の沢西遺跡出土深鉢形土器1点
10	上田市立博物館	特別展「金箔瓦の城」に展示	10.2～11.20	甲府城跡瓦1点、號瓦片5点、鬼瓦1点、鬼板瓦2点、飾り瓦3点、飾り瓦片4点、烏衾瓦1点、軒丸瓦2点、蜀子瓦1点
11	駿遊堂遺跡博物館	特別展「縄文の舞～土器に描かれた人形象形文の世界～」展に展示	10.7～12.6	上野原遺跡出土深鉢形土器2点、甲ヶ原遺跡出土深鉢形土器1点、金の尾遺跡出土深鉢形土器1点、一の沢西遺跡出土深鉢形土器3点、西田遺跡出土深鉢形土器1点、重部原遺跡出土深鉢形土器4点、酒呑場遺跡出土深鉢形土器2点、酒呑場遺跡出土ミニチュア土器1点、酒呑場遺跡出土顔面装饰付土器1点、酒呑場遺跡出土深鉢形土器13点
12	島田市博物館	特別展「縄文の土器展～縄文人からのメッセージ」展に展示	1.10～3.20	上野原遺跡出土深鉢形土器1点、甲ヶ原遺跡出土深鉢形土器1点、甲ヶ原遺跡出土猪把手付深鉢形土器1点、一の沢西遺跡出土深鉢形土器4点、安達寺遺跡出土猪把手付深鉢形土器1点、安達寺遺跡出土有孔鈎付土器1点

今年度は以下の写真等の掲載許可申請があり許可した。

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
1	3.26	日本放送出版協会	「萬葉まほろば博、三内丸山遺跡とその世界」展公式ガイドブックに掲載	金生遺跡中空土器1点、一の沢西遺跡萬葉文土器3点・有孔網付土器1点、安達寺遺跡萬葉文土器1点、海道前C遺跡顕面把手付土器1点、石錐形器1点
2	4.1	ニュースサイエンス社	「考古学ジャーナル」No.603に掲載	鏡子板古墳形埴輪1点、鏡子板古墳遺物1点
3	4.17	山梨県史編さん室	「山梨県史研究」第4号に掲載	小平沢古墳銅鏡...等...銅鏡1点
4	5.14	秋田書店	「歴史と旅」7月号に掲載	縄文時代の幣穴住居ジオラマ1点
5	5.14	日本放送出版協会	NHKブックス「萬葉文字への道」に掲載	新羅寺遺跡土偶の集合写真1点
6	5.22	十日町市立博物館	特別展「萬葉の美—大船山の器の系譜」展示図録に掲載	上野原遺跡深鉢形土器2点、甲ツ原遺跡深鉢形土器1点、宮の前遺跡深鉢形土器1点、一の沢西遺跡深鉢形土器1点
7	5.23	相模原市総合博物館	特別展「勝坂の民・農耕の民」展示図録に掲載	村上遺跡顕面把手付土器1点、安達寺遺跡顕面把手2点・猪口付土器1点、宿所遺跡顕面把手1点、上の平遺跡顕面把手1点
8	5.23	雄山閣出版	「考古学による日本歴史」第2巻に掲載	大師東丹保遺跡縄文時代水田跡1点、反の公園遺跡中の窯穴1点、二本柳遺跡平安時代水田跡1点
9	5.31	朝日新聞社出版局	朝日選書557「萬葉文」に掲載	奈良原遺跡萬葉文土器1点
10	6.3	講談社	「X百科事典」に掲載	勝沼遺跡深鉢形土器1点
11	6.5	朝日新聞社出版局	「古墳地本・占碑への旅」に掲載	鏡子板古墳・丸山原古墳鳥獣彫刻1点
12	6.17	学習研究社	「萬葉への旅」に掲載	安達寺遺跡有孔網付土器1点、一の沢西遺跡深鉢形土器3点・有孔網付土器1点
13	6.20	山梨日日新聞社 出版局	「ザ・やまなし」7月号に掲載 「萬葉まほろば博」会場内映像展示	ヒの平遺跡航空写真1枚、風土記の反転字写真1枚、鏡子板古墳石室1点・國文帝帶狀冠1点
14	6.20	「萬葉まほろば博」	への取締・NHK番組への取締	安達寺遺跡手縫把手付土器1点
15	6.25	「萬葉まほろば博」実行委員会	「萬葉まほろば博」物販のため	安達寺遺跡深鉢形土器1点、海道前C遺跡顕面把手付土器1点、一の沢西遺跡大型把手付土器1点
16	6.25	日経BP社	日経アート8月号・久津屋良明氏「花と陶芸」に掲載	殿林遺跡深鉢形土器1点
17	7.2	山梨日日新聞社 出版局	「ザ・やまなし」8月号に掲載	経塚古墳全貌写真1点
18	7.4	NHKエデュケーション	NHK教育テレビ「日曜美術館」に 収録	安達寺遺跡手縫把手付土器1点、金生遺跡中空土器1点、海道前C遺跡顕面把手付土器1点
19	7.13	新潟社	「芸術新潮」9月号に掲載	金生遺跡中空土器1点
20	7.26	角川書店	「発見の古代史...第1巻『原人から 萬葉文化へ』に掲載	甲ツ原遺跡縄文玉器1点
21	8.15	新桂舎	学習研究社「古代史発見」3「健の 天皇陵と比古木塙（歌）」に掲載	鏡子板古墳空塗装埴輪1点
22	8.31	朝日新聞社出版局	「古代史発見91-93新遺跡カタログ (歌)」に掲載	米倉山遺跡遺泉山上状況1点、越塚古墳発掘状況(94年)3点・(95年)2点
23	9.11	日本放送協会	NHK総合テレビ東北スペシャル 「上原に隠る萬葉の心」に収録	安達寺遺跡手縫把手付土器1点
24	9.12	上田市立博物館	特別展「金箔瓦の城」展示図録の掲 載	甲府城跡天守台石垣1点・城丸1点・鏡瓦片5点・鬼瓦2点
25	9.13	駿道堂遺跡博物館	特別展「萬葉の第一歩間に描かれた 人体形象文の世界ー」展示図録に掲 載	上野原遺跡深鉢形土器1点、甲ツ原遺跡深鉢形土器1点、金の尾遺跡深鉢形土器1点、一の沢西遺跡深鉢形土器3点、西田遺跡深鉢形土器1点、重井原遺跡深鉢形土器4点、香脊場遺跡深鉢形土器2点・ミニチュア1点・顔面戴冠把手付土器1点・深鉢形土器13点
26	9.19	NHK大阪放送局	B'Sスペシャル「タイムトリップ 1万年～小学生考古学授業～」第3 話に収録	金生遺跡イシノク骨山上状況1点
27	10.4	講談社	「歴史発掘第2巻 萬葉文書出現」 に掲載	一の沢西遺跡他萬葉文土器集合写真1点
28	10.17	山梨日日新聞社 出版局	「ザ・やまなし」11月号に掲載	大月遺跡石柱居写真1点・御所道路石件1点
29	10.22	東京営業新社	日本テレビ系「知ってるつもり？」 「御所古墳」に収録	甲府城模型1点
30	10.24	国ランダムコミュニケーションズ	「放送芸先MOOK 別冊ロマンへの旅・古代遺跡めぐりガイド」(歌) に掲載	滋土記の丘公園全景1点、考古博物館外観1点・展示室1点・窓穴住居ジオラマ1点・隣接遺跡萬葉文土器1点・金生遺跡窓穴1点、一の沢西遺跡窓穴1点・身延古墳道標木製模型1点・大丸山古墳模型1点・駿道堂遺跡土偶集合写真1点
			鏡子板古墳全景1点・丸山原古墳全景1点・風土記の丘公園近景1点・駿道堂遺跡土偶集合写真1点	

31	10.29	小学館	「日本美術館」に掲載	殿林道跡深沢形土器1点、安達寺遺道有孔縄手付土器1点
32	10.31		「日本美術館」に掲載	駿連堂遺道手付瓦1点
33	11.28	財團法人あすか青年 育成国際財團	情報誌「ふれあいの森」に掲載	一の沢西遺跡深沢形土器1点
34	11.28	日経BP社	「日経アート4月号『赤瀬川原平・山下裕二』の日本美術化探団」に掲載	飛跡跡深沢形土器1点、一の沢西遺跡深沢形土器1点、上野原遺跡深沢形土器2点、安達寺遺道有孔縄手付土器1点、宮の前遺跡深沢形土器1点、埋魔芋1状況1点
35	12.3	島田市博物館	特別展「鏡文の十番撰—鏡文から のメッセージ。展示回録に掲載	上野原遺跡深沢形土器1点、甲ツ原遺跡深沢形土器1点、猪子手付深沢形土器1点、沢内遺跡深沢形土器4点、安達寺遺道有孔縄手付深沢形土器1点、有孔縄手付土器1点
36	12.4	人社	「山内清男 志考考古学論文集」カ タログに掲載	殿林道跡深沢形土器1点
37	12.13	山梨新報社	「山梨新報」1月1日号特集「甲府 城」に掲載	中野城遺跡尾羽町丸2点、金指城瓦1点、金指城瓦(復元)1点、五 三郎瓦1点
38	1.1	山梨日日新聞社	(仮)「新訂 山梨の遺跡」に掲載	立石遺跡刺柵風景1点、石畠一括1点、伝の公園鹿鳴風景1点、遠寺 遠寺1点、接合資料1点、石器部1点、剥片類1点、児川調査風景1点、天神遺跡集落風景1点、遠寺 遠寺1点、破玉勾配1点、高瀬谷C遺跡山頂1点、高の曲遺跡堀押上1点、上野原 水煙把手付土器1点、安達寺遺道水煙把手付土器1点、猪子手付土器1点、猪アップ1点、蛇付土器1点、 一の沢西遺跡深沢形土器5点、上野原1点、上の平野路1点、月形遺跡1点、上原一折1点、梅 坪遺跡土器1点、石巻セット1点、利天文字塗土器1点、甲ツ原遺跡土器1点、猪子手付土器1点、城 原一折1点、後谷上1点、殿林道跡深沢形土器1点、大月遺跡散在土器1点、敷石10点1点、 集落風景1点、企生遺跡全景1点、裸石モザイク1点、上原耳挖セッテ1点、2号石器1点、御坂原一群 1点、南越器ウサギ模写1点、鬼ヶ岡式土器1点、2号配石 捨遺物1点、菖蒲池遺跡刺柵風景1点、 遠寺1点、向河原遺跡水田全景1点、平野原遺跡火葬灰1点、長田J遺跡1点、木曾山遺跡貨貝1点、十 五所跡方形四隅土器1点、土器1点、東井保鉢地割れ1点、噴砂1点、かばら焼1点、航空写真1点、 酒匂風景1点、網代の側面風景1点、網代部分1点、網代別1点、網代柱1点、車出土器状況1点、かぶ頭1点、 下駄1点、水田路1点、水田枕1点、身赤沢遺跡木製具1点、金の尾遺跡ガラス玉1点、織裂石1点、 筋轆車1点、山古崩跡航空写真1点、東山北遺跡磨石包丁1点、化粧土1点、2号方形圓溝沿邊 1点、空掘1点、柳原道跡1号方型圓溝風景1点、通造1点、遠寺遺跡磨石圓溝風景1点、弓 の頭出土状況1点、ヒトクサ1点、人形出土状態1点、手足1点、櫛原遺跡圓溝遺物出土状況1点、幾 丈文1点、丸丸山古墳全景1点、競爭古墳壇覆元全景1点、隔離1点、小平沢古墳丘風景1点、 木丹保鉢跡古墳出土状況1点、古墳1点、かんらん塙古墳壇風景1点、馬具1点、雁沼坂塙壇墓底 1点、高在風景1点、東山B遺跡盆地を望む全景1点、県内最古須恵器1点、絆家大塚壇墓底 1点、心1点、村前遺跡全量発見1点、土器セッテ1点、土器削下鉢カマド1点、往因遺跡風景1点、 二官、橘原遺跡集落全景1点、上器セッテ1点、大坂遺跡刺柵風景1点、10センセット1点、二木浦遺跡半 安水原土器1点、井戸1点、かわらけ野出土状況1点、木山調査風景1点、木の瀬調査風景1点、油山遺跡 平安山土器1点、堅土1点、糸原遺跡窓跡1点、櫛書き土器1点、櫛書き土器1点、佐用A遺跡私室遺跡1点、灯 明畠土状態1点、絆器陶器等炉1点、瓦1点、寺所遺跡鐵製品1点、宇城城石垣修復部分1点、心4 下溝全景1点、深溝1点、胴木1点、木丸削費1点、金丸1点、通造出土状況1点、御崎河跡器物 遺合1点、航空写真1点、宍民中河通耕疏風景1点、参道1点、農家の石1点、石臼と胴木1点、 井1点、池1点、出土遺物1点、東河原遺跡刺柵風景1点、冰川路1点、小舟跡1点、宇津奈路1点、 花島跡圓溝文化1点、土器1点、オコゲ付土器1点、鏡1点、空堀1点、笠置跡1点、笠置遺跡有孔縄器1点、 獅子之前遺跡圓溝1点、水春場遺跡草野上器物1点、オコゲ付土器1点、中柄遺跡遺物1点、小平 沢古墳2点、神ノ城殿1点、御所遺跡陰付石1点、源谷塙遺跡出土土器1点、浅裂土器1点、蛇把子 アップ1点、硬土1点。
39	1.7	山梨県土研会	「甲斐路」季刊6号に掲載	花鳥山遺跡刺柵網オコゲ1点、ボタン只製品1点、佐庭山出土エゴ マ1点、甲ツ原遺跡乳頭刺柵網1点、近森1点、土器出士状態2点、掘立柱跡物1点、先堀調査風景 1点、柱割跡2点、笛田遺跡竹竹1点、經城古墳壇丘正面1点、搞丘全景1点、大胡東保鉢跡物1点、 桂根1点、網代ぬれ地出土2点、印前遺跡細縫曲輪物出土船室1点、人質曲輪出土鬼丸1点
40	1.15	日経BP社	「日経アート4月号『赤瀬川原平・ 山下裕二』の日本美術化探団」に掲載	考古博物館展示室風景1点
41	2.24	日立デジタル平凡 社・平凡社	CD-ROM版百葉事典「マイペデ ィア」(仮称)並びにCD-ROM 版「世界大百科事典」に掲載	殿林道跡深沢形土器1点
42	2.27	山梨日日新聞社	「デ・やまなし」3月号に掲載	金の尾遺跡風景1点、十番 括1点、油田遺跡木製1点、大胡東 丹保鉢跡1点
43	3.6	文化出版社	「パノラマ歴史館」に掲載	安達寺遺跡深沢形土器1点、一の沢西遺跡深沢形土器1点、浅沢形土 器1点、上野原遺跡深沢形土器1点、大神道跡深沢形土器2点、花鳥山遺跡深沢形土器2点
44	3.19	山梨日日新聞社 山梨日日新聞社	「デ・やまなし」4月号に掲載	長田遺跡刺柵1点、村前遺跡風景1点

5 調査研究課題内研究グループ

本年度は5部会を設定し、以下のような内容で毎月末日ごとに自主研究を行った。

縄文部会 縄文部会では、昨年度に引き続き県内出土の縄文土器の集成を行った。この作業は草創期から晩期までの“縄文土器絵引き”を作成することを目的としており、そのために報告書毎に縄文土器を時期分類しつつ集成を試みたものである。当センター刊行の報告書・紀要・年報掲載資料については昨年度までの刊行分については終了したが、今年度刊行分や新資料の追加を行い、市町村刊行の報告書の集成を行っている。集成の方針としては、できるかぎり完形品を収載することとしているが、県内の特徴として中期に資料が集中し、草創期など完形品のない時期については破片資料でも掲載するようにした。来年度中には、古い時期から順次、配布を予定している。

古墳部会 県内の古墳編年は先達の努力によって方向性は導き出されているが、総合的な分布状況やグルーピングなどについてはいまだに確立されているとはいえない。そこで古墳部会では昨年度より県内の古墳に関するデータカードの作成を試みることにした。その手始めとして八代町において、1990年に八代町教育委員会より刊行された「遺跡詳細分布調査報告書」をもとに、約100基余りの古墳を竹居地区より北側に向かって網羅するようその分布状況を現地に赴き、調査した。その結果、南側山間部においては畠等の改修が急速に進み、古墳の位置すら確認が非常に難しい状況であった。このような現状から、当該地域のデータを早急に蓄積し、いち早くカードの公開ができるよう、努力しなければならない。

中・近世部会 当部会は、昨年に続き「山梨における中世土器の考古学編年の確立」を研究テーマに作業を続けてきた。地域性も考慮する中で、県内を5地域に分け各担当ごとに資料を収集し、編年一覧の骨組みを構えることを目的としてきた。かわらけの編年についての問題は共伴する陶磁器であるが、これもふくめた資料収集の完成までには至らなかった。一方、鎌倉時代の様相および戦国時代後半の実態はつかめつつあるが、その間の14世紀～15世紀の資料の検討が今後の問題として残された。来年度に期待したい。

考古教材研究部会 当部会は、センターに文化財主事として赴任した公立の中学校、及び高等学校の教員で構成され、また専門の文化財主事も参加した。今年度の研究活動として、月に一度の研究活動、また学校現場（県内小・中・高等学校）へのアンケート調査、学校現場向けの遺跡だよりの作成及び配布を行った。特にアンケート調査は、学校現場からの要望をまとめ、今後、専門の文化財主事と議論しながらセンターと学校現場との協力をはかっていく。

実験考古学研究部会 本部会は「遺構・遺物等の解釈について、実際に製作するなどの方法によってそのヒントを摸索すること」を目的に設定された。今年度の研究テーマとしては主に「打製石斧」を取り上げるものとし、石器石材の収集・製作・使用実験などの活動を行った。これらの成果については、製作工程の写真や製作上の留意点などを盛り込んだ冊子としてまとめる予定である。来年度以降のテーマは未定であるが、土器・鉄器などの遺物を中心に「実験することによって明らかになる課題」について取り組んで行く予定である。

6 遺跡調査発表会

当センターでは、県内で実施された遺跡調査の内容を一般県民に広く知っていただくため、山梨県考古学協会と共に年2回の遺跡調査発表会を実施している。例年のごとくスライドをmajiedた口頭発表に加えて出土遺物や写真などの展示もおこなった。以下概要を述べる。

1996年度上半期遺跡調査発表会（10月19日（上）於：県国際交流センター 約120名参加）

1. 寺所第2遺跡 大泉村西井出210番地外【大泉村教育委員会：伊藤 公明】 繩文時代中期の住居跡93軒、土坑約250基、平安時代の住居跡37軒（石製鉢、「倉」の墨書き土器等が出土）、掘立柱建物跡2棟が発見された。

2. 村前東A遺跡 櫛形町十五所297外【当センター：石神 孝子】 24ページ参照

3. 中秩塚古墳 竜王町竜王地内・双葉町下今井地内【竜王町教育委員会：皆川 洋】

直径約15m、高さ2.3mの墳丘を検出し、石室からは直刀、金環、鉄錐が出土し、また前庭部からは大甕、蓋、壺などの須恵器片が出土した。

4. 松ノ尾遺跡 敷島町中下条・大下条地内【敷島町教育委員会：大嶋 正之】

古墳時代後期の住居跡5軒、平安時代中期から後期の住居跡19軒、土坑43基、溝跡5条、堅穴状遺構3基を検出し、平安時代の銅製の阿弥陀如来の坐像が二枚発見された。

5. 武田氏館跡 甲府市古府中町中曲輪・味噌曲輪・笠堀【甲府市教育委員会：志村 癸一】

館の造営から武田氏滅亡後の再整備に至る、数時期に渡る遺構が良好な状態で検出された。

1996年度下期遺跡調査発表会（3月8日（上）於：昭和町総合会館 約120名参加）

1. 諏訪原遺跡 明野村上神取1556-1【明野村教育委員会：佐野 隆】

平成7年度の発掘調査の結果、繩文時代中期後半から末葉の住居跡が44軒発見され、埋甕や石棒などが検出された。

2. 富士登山道関連遺跡 富士吉田市上吉田【富士吉田市教育委員会：布施 光敏】

富士山一合目にあたる鈴原神社に直登するルートの存在が確認され、石造物や階段を形成していたと思われる木材や山小屋跡が発見された。

3. 鰐沢河岸跡 鰐沢町明神町地内【当センター：新津 健】 26ページ参照

4. 十五所遺跡 櫛形町十五所吉田地内【当センター：保坂 一英】 20ページ参照

5. 昭和町かすみ堤 昭和町河西地内【昭和町教育委員会：田中 大輔】

釜無川の氾濫に対する治水施設であるかすみ堤の構造と河川の氾濫による破壊のため堤を補修した様子が明らかになった。出土遺物として葦石と蛇籠や木枕などが発見された。

上半・下半期の発表会をとおして各発表者には発表の際一般の人たちにも分かるように努めて頂いた。また、下半期においては発表会場も当センター施設や甲府市内の会場ではなくあえて発表遺跡に近い会場を選んで行い、地元の人達をはじめ多くの参加者にきて頂いた。

7 山梨の遺跡展'97

本年度、当埋蔵文化財センターおよび市町村教育委員会が実施した発掘調査の出土資料・成果を、いち早く一般に公開することを目的に、当センター主催で実施した。

開催は、本年3月15日から4月6日まで、県立考古博物館特別展示室で入場は無料とした。

展示内容は、全体を①縄文文化と古墳文化、②埋蔵文化財センター展示、③市町村展示、④パネル展示、⑤科学の目で見る考古学の五つの構成に分けた。①では、整理調査の進んだ縄文時代の酒呑母遺跡と古墳時代の村前東A遺跡に焦点をあて、両文化の比較展示を行なった。②では当センターが調査を実施した中の8遺跡を紹介した。③は、富士吉田市、敷島町、竜王町、昭和町各教育委員会より発掘資料を借用し展示了。④では資料展示よりも写真・パネルによる展示の方が有効的と思われる遺跡を取り上げ展示了。⑤は、「土器はどこからやってきたのか?」というテーマで、帝京大学山梨文化財研究所河西学氏の協力で、胎土分析から見た土器の生い立ちを顕微鏡の世界から紹介し、また塩部遺跡の保存処理した木器の展示を行った。

全体として、19遺跡300点以上の資料を展示了。本年度の傾向として、鍬沢河岸跡、富士登山道関連遺跡、昭和町かすみ堤など江戸時代から昭和初期の展示が目立ち、興味の対象とされた。展示方法としては、案内・解説・キャプション等の字体・文字数・文字の大きさ・内容・年代表記などに統一性を持たせ、平易な表現で見学者の年齢に関わりなく展示内容の理解度が深められるよう留意した。

8 第8回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

山梨県内の市町村教育委員会等に勤務する埋蔵文化財専門職員の技術・知識の向上を目的とする『市町村埋蔵文化財専門職員研修会』を例年通り開催した。

第8回を迎えた今回の研修会は平成9年2月21日に山梨県立考古博物館風土記の丘研修センターを会場に実施した。今回の研修テーマは「土器復元の新技法」とし、講師には徳永哲秀氏(財団法人 長野県埋蔵文化財センター 長野調査事務所)をお迎えした。

研修テーマである「土器復元」は、整理作業においては避けて通ることのできない重要な作業工程であるとともに、時間・労力を要することから効率的な作業が望まれている作業でもある。また、将来的な展示・保管という文化財保護の観点からも、十分な復元に際しての技術・知識に関する項目はもとより、作業工程や人員配置などの効率的な方法にまで踏み込んだご講演をいただくこととなった。特に土器復元の効率的な復元方法については、参加者の关心が高く、莫大な量の土器復元を含む整理調査を担う市町村埋蔵文化財専門職員の苦勞が窺えた。また、講演後には土器復元用の新素材である形状記憶樹脂やエボキシ樹脂などを実際に使用した実習も指導していただき、今後の山梨県内の埋蔵文化財保護業務の推進に役立つ研修会になったものと考えられる。

9 調査研究課課内研修

当センターでは隔月に一回程度の割合で「調査研究課課内研修会」を開催している。これは発掘調査に携わる職員が、様々な知識を得る機会を設けることを主旨的としている。本年度開催した研修会は下記の通りである。

	開催日	講演・発表テーマ及び発表者	備考
1	1996.4.26	「兵庫県復興調査支援報告」 小林健二 当センター	支援職員として復興調査に参加しての報告
2	1996.5.31	「金属器の劣化防止方法」 ～出土金属器保存 ～P Rシステムの利用について～ 豊田拓男氏 (㈱三菱ガス化学) 「写真のコンピューター処理について」 村石真澄 当センター	発掘現場でできる金属器保存方法についての実例を交えた講演 Photo CDを活用しての報告
3	1996.7.31	「三次元形状実測機器のデモンストレーション」 長谷川信男氏・金沢龍秀氏 (㈱樫村)	コンピューターを利用した実測方法の講演
4	1996.8.30	「震災復興調査の様子」 小林公治 当センター	現在、復興調査を担当しての報告
5	1996.10.31	「土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム」 「人類学講座・初級編」に参加して 田口明子 当センター	96年六月に山口県で行われた講座の参加報告
6	1997.1.30	「歴史考古学の展望と課題」 坂詰秀一氏 立正大学文学部教授	歴史考古学の歩みと実例についての講演
7	1997.2.28	「考古資料教材化の今後の展望」 考古教材研究会 当センター	考古資料活用についてのディスカッション

10 寄贈・購入図書

今年度の登録図書数は、約4,850冊に及ぶ。当所においては約33,000冊以上の蔵書があり、来所される方や、職員に幅広く活用されている。蔵書類は、主に全国各地の発掘調査報告書と考古学および日本古代史に関する概説書は当然のことながら、最近では中世・近世の歴史や民族史に係わるものなど種類を増やしつつある。図書室を開設して15年程になるが、最近の発掘件数の増加に反映されるように、全国各県・市町村教育委員会から寄贈される発掘調査報告書や、博物館・資料館などからの企画展示・常設展示図録の数は年々増加してきている。また、発掘による資料の増加は、研究者の研究活動にも拍車をかけ良質の論文が多く書かれている。研究機関として、最新の情報と資料を提供するため多くの図書を必要とするが、当所の登録図書の大部分は各関係機関から寄贈されるもので、今年度、購入した図書はその中の約150冊にすぎない。

II 各遺跡の発掘調査概要

1. 清里バイパス第1遺跡

所在地 北巨摩郡高根町清里3545-1
事業名 主要地方道須玉八ヶ岳公園線（清里バイパス）建設
調査期間 1996年4月24日～6月12日
調査面積 3,000m²のうち2,400m²
担当者 山本茂樹・川手昌英



清里バイパス第1遺跡 位置図

山梨県の北西部に位置する八ヶ岳山麓には広大な県有林があり、清里の森と称されている。その清里の森地内にバイパス建設事業が計画され、事業に先立って埋蔵文化財の有無の確認のため試掘調査が行われた。その結果、陥し穴が発見されたことにより、本調査が実施された。本調査は約1ヶ月半にわたって行われ、陥し穴の総数76基が確認された。

本遺跡の標高は1,306m前後で、県内でも高所に位置している。調査区は八ヶ岳山麓が形成されているやせ尾根状の台地で、浅い谷が尾根の両脇に入り込んだ地形をなし、本調査区を挟む谷部特に北斜面部では、表土のすぐ下に疊層が形成されていることが確認され、本調査区に陥し穴が掘られたことも納得のいくところである。

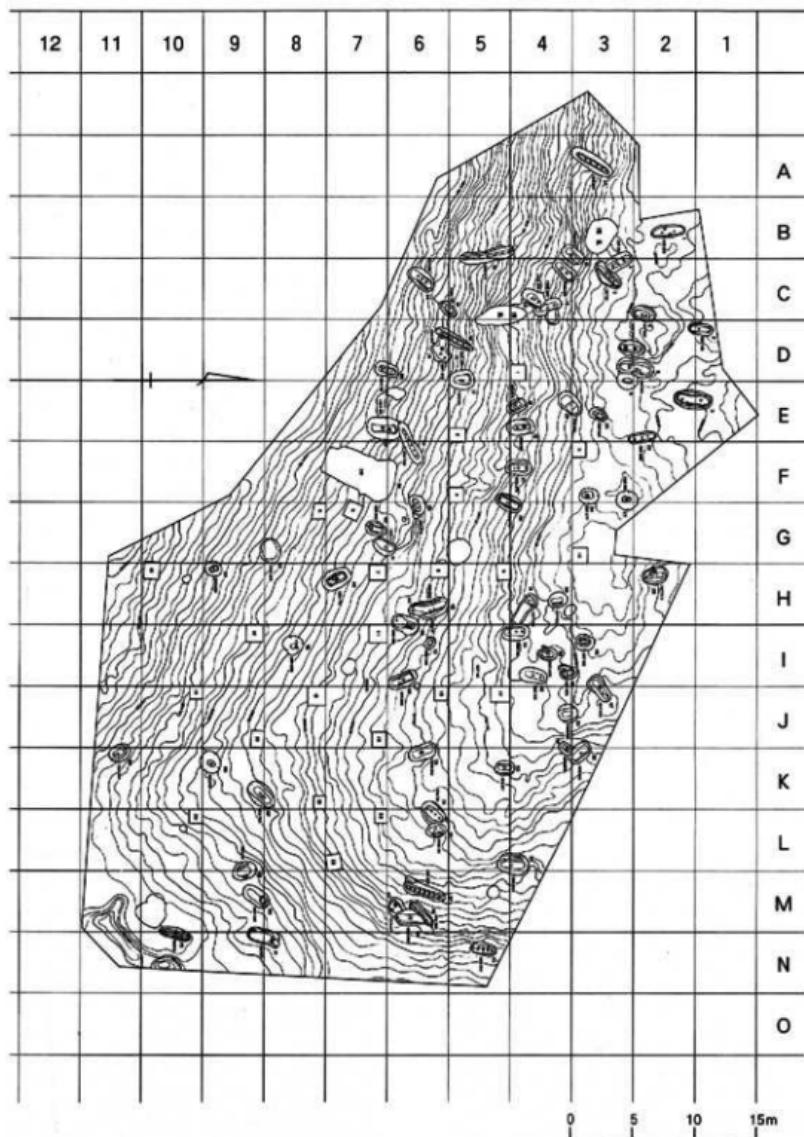
昭和60年度に本遺跡から北約100m、標高約1,317mの地点で調査がなされており、縄文時代中期の住居跡1軒と陥し穴が2基が発見されている。このようなことから、本調査区においても住居跡が確認されるのではないかと思われたが、結果的には確認されなかった。

調査は重機によって、ローム層の上面まで掘削を行い、ジョレンによって遺構の確認作業を行った。その後、5×5mのグリッドを設定し調査を行った。

調査区全体は黒色を呈する腐食土層に覆われ、厚いところでは80cm以上も堆積している箇所もある。調査区の南側は谷が形成され、いつも水が湧きでている状態である。北側の谷では、腐食土層の下には、疊層が形成されている。

本調査の結果、縄文時代の陥し穴と考えられる遺構と、中世以降のものと思われる陥し穴が発見された。時期的な区分は、陥し穴に堆積した土のしまり具合と陥し穴の形態によって分けられる。特に中世以降と考えられる遺構は、細長い形態で底には6～7カ所程度の小穴が規則的に配されているのが特徴である。遺物については、陥し穴という性格上、発見することはできなかつたものの、排土中より縄文時代中期後半の土器片數点を表採することができ、石器としては石鏃1点が発見された。また細長い中世以降と思われる陥し穴の底の小穴から、杭が打ち込まれたと考えられる杭の基部（根本）が3基の陥し穴から発見されている。それぞれ杭の端部は尖らせており、太さは1.8～3.4cmを計測する。

旧石器時代の遺構の確認作業は、23ヶ所の試掘坑を設定しておこなったが、遺構および遺物は発見されなかった。



清里バイパス第1遺跡 全体図

2. 清里バイパス第2遺跡

所在地 北巨摩郡高根町清里3545
事業名 主要地方道須玉八ヶ岳公園線（清里バイパス）建設
調査期間 1996年7月29日～9月19日
調査面積 2,600m²
担当者 坂本美夫・川手昌英
高野玄明・雨宮芳夫



清里バイパス第2遺跡 位置図

本調査を行った清里地区は、通称「念場原」と称する台地上に広がる。この台地は、東を大

門川、西を川俣川の深い谷によって切られ、八ヶ岳の広大な裾野の一部を構成し、大半が森林や牧草地のため、遺跡の把握が困難な地域であり、本遺跡は、こうした条件下的標高約1,250m前後に立地する。今回の調査は、清里バイパス建設に先立つ試掘調査を行った結果、遺物が検出されたため、本調査に至った。調査は、表土（腐植土）を重機を用いて除去し、その後、遺物が検出された暗褐色・黒褐色粘質土を掘り下げた。その結果、遺構は全く検出できなかったものの、暗褐色・黒褐色粘質土中から縄文時代早期中頃の土器片や黒曜石製の有茎・無茎石鏸、それに黒曜石・チャート・シルト岩などの剥片が検出された。土器片については、橢円押型文や山形押型文を施すもの、縦方向の帯繩文を施すもの、半截竹管による押引文が施されるものなど、県内で、あまり出土例のない遺物が検出された。

本遺跡は、前述したとおり遺構は全く検出されておらず、また、調査面積から見ると遺物の総点数も少ない。これは、調査区東側において人頭大程の礫が流れ込んでいる状況が覗え、それと平行するように、小さな沢状の落ち込みが検出され、さらに遺物も流路と平行した状況で分布していることから、遺物が付近に存在していたと思われる遺跡から流入した結果であろう。



清里バイパス第2遺跡 調査風景



清里バイパス第2遺跡 全景

3. 箕輪バイパス関係遺跡範囲確認調査

事業名 国道141号（箕輪バイパス）建設工事

①所在地 北巨摩郡高根町箕輪横森地内

調査期間 1996年10月29・30日

12月19・20日

調査面積 2,512m² (7,000m²)

担当者 坂本美夫・川手昌英

高野玄明・雨宮芳夫

②所在地 北巨摩郡高根町箕輪2601-2外

調査期間 1996年6月7日

調査面積 約70m² (600m²)

担当者 田口明子・米山 真

① 用地買収が完了している道路用地内に、重機により試掘トレンチを設定し、範囲確認調査を行った。その結果、調査区中央付近の地表面に五輪塔が7基ほど確認されており、その内の5基ほどが箕輪バイパス計

画線内に分布していた。このため、地中にも五輪塔並びに下部遺構が存在している可能性も考えられることから、未買収地を除いた用地の一部分の掘り下げを行ったところ、深さ50cm程の黄褐色粘質土（ローム層）上面より五輪塔の一部が確認され、さらに周辺から検出される可能性が非常に高いと考えられる。特に、注目されるものとして、おびただしい炭化材と炭化材中に焼骨が含まれる五輪塔の下部遺構が検出されている。遺構内にはカワラケがふせた状態で置かれ、炭化材下部には平石や焼土が検出された。五輪塔の下部遺構は、埋葬に関する遺構と考えられるもので、下部遺構の検出はこれまでほとんど例がない。下部遺構についても、周辺に分布している可能性が非常に強いものと考えられる。

今回の調査により、検出された五輪塔や下部遺構については、遺物などから推定すると中世に造られたと考えられ、中世における県内の埋葬形態を知る上で貴重な資料となるであろう。

なお、遺跡が確認された部分について、来年度本調査を行う予定である。

② 昨年度、本調査した平安時代の集落跡である大林上遺跡の南隣において、範囲確認調査を行った。重機により幅約1m、長さ約12~20mの試掘トレンチを4箇所設定した。その結果、調査区の北側のトレンチからは何も発見できなかったが、ほぼ中央のトレンチからは古墳時代の土師器破片が若干出土した。また、南側のトレンチより古墳時代の土師器破片が数点、黒曜石の測片が1点出土した。いずれの土師器破片も、ほとんど磨滅がみられないが、遺構は発見できなかっ



箕輪バイパス関係遺跡
範囲確認調査 位置図

4. 横森・横森前遺跡

所在地 北巨摩郡高根町横森前636番地外
事業名 国道141号（箕輪バイパス）建設工事
調査期間 1996年9月24日～12月9日
調査面積 1,453m²
担当者 板本美夫・川手昌英
高野玄明・雨宮芳夫

横森・横森前遺跡は、緩やかに傾斜した八ヶ岳南麓の裾野で、富士川と須玉川に解析された台地上の微高地に立地し、標高約700mに位置す



横森・横森前遺跡 位置図

る。本遺跡は、箕輪バイパス建設工事に関する調査で、高根町教育委員会の遺跡台帳にも登録されている遺跡である。調査に先立ち、表面採集による事前調査では少量であるが、縄文時代の土器片が採集されていることから、縄文時代の遺跡の可能性が考えられた。しかし、重機による表土剥ぎの結果、中世の遺物が目立つようになり、中世における何らかの遺構の存在が示唆された。その結果、主な遺構として中世の堅穴状の建物跡2軒、地下式土壙20基、小型の方形を呈する土坑24基、溝状遺構4条、掘立柱建物跡1棟などが検出された。堅穴状の建物跡について1号建物跡は、長辺4.5m、短辺3.5mの隅丸長方形を呈し、壁高0.7mを測る。床面はかなり踏み固められた状況が窺え、壁際には周溝や柱穴が龜る。今回の調査で、数多く検出され注目されるものに地下式土壙がある。地下式土壙は、堅坑と横坑とに分かれており、堅坑は長径0.6～1.15m、深さは遺構確認面より2.0mを測り、底面形態は柄鏡状・羽子板状を呈するものが見られ、規模や形態は多様である。また、横坑の壁面には、掘削したときについたと思われる工具痕が明瞭に残っている地下式土壙が、数基ではあるが確認されている。地下式土壙周辺に見られる小型の方形を呈する土坑については、一辺が約1.0～1.5m四方の方形及び長方形を呈するもので、覆土中から土師質土器片や石臼・内耳土器などが伴って検出された遺構も確認されている。また、土坑底面から焼けた人骨片が検出された遺構もみられる。

なお、本遺跡は東田・原屋舗を遺跡名としていたが、誤記の為、遺跡名を変更し東田・原屋舗から「横森・横森前遺跡」とした。



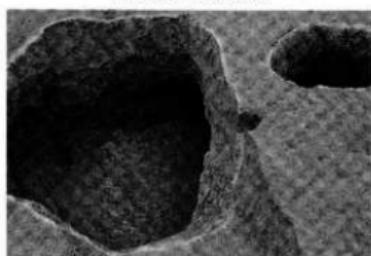
調査風景



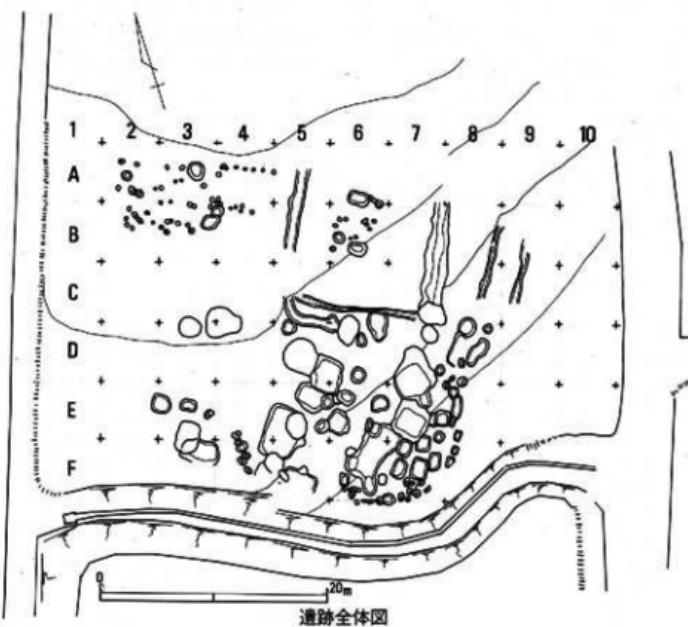
内耳土器 出土状況



25号土坑（人骨・石臼）出土状況



13号地下式土坑



5. 宮の前遺跡

所在地 北巨摩郡高根町箕輪2343外
事業名 国道141号（箕輪バイパス）建設工事
調査期間 1996年4月22日～9月6日
調査面積 4,000m²
担当者 田口明子・米山 真

本遺跡は県北西部、八ヶ岳を背景として南北に走る標高約670mの尾根の斜面上に位置する。国道141号（箕輪バイパス）建設事業に伴うもので1994年度に本調査に先立ち、10本のトレーナーを設定して試掘が行われたが、その結果平安時代と思われる住居跡1軒、溝2条、炭焼窯、方形土坑、ピット群が確認され、遺物としては縄文土器1片が出土したことから今回の調査が実施された。

今回の発掘調査の結果、縄文及び平安時代の竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡10ないし11軒、時期不明の土坑約50基、方形土坑10基、集石土坑2基、焼土跡17基、中世以降とみられる溝21条などが確認された。

1号住居跡は長辺4.6m、短辺3.5mのほぼ方形で東側にカマドが位置しており、中心部にも焼土化した部分が認められた。また、床面の南半分ほどには厚さ2～6cmほどの貼土が施してあった。2号住居跡は、長辺3.2m、短辺2.8mの方形である。カマドは南東隅に位置し、その焼土及び貯蔵穴と思われる土坑の中からは壙が出土した。

3号住居跡は確認面が浅かったため床面は確認できなかったものの柱穴と見られるピット5基が円形をなしており、また中心部に炉と見られる焼土跡が確認されたことから直径5.7m程度、縄文時代のものと思われる。焼土中からは壙が出土しており、また南西側には直径15cmほどの壙窓が確認された。1・2号住居跡と3号住居跡の中間付近では炉と思われる遺構が確認されたが、こちらも3号住居跡と同様確認面が浅かったため床面・柱穴等は確認することができなかった。

1号住居跡周辺及び2号住居跡の北西側には数十基の柱穴群が確認され、約10軒の掘立柱建物跡があったと推測される。溝についての詳細な時期は不明だが、壁や底にみられる工具痕から中世以降のものと思われる。深さ数十cmほどの浅いものと深さ1mを超える深いものの2種類があるが、遺物の多くが砂層から出土していることなどから水路として利用されていた可能性が高い。

その他の遺構としては集石土坑が2基確認された。特に1号集石土坑は直径1.6m、深さ50cmほどの円形で中心部に20～30cmの深さで焼けた石が十数点入っており、底面からは平安時代のものと思われる鉄製品が出土した。



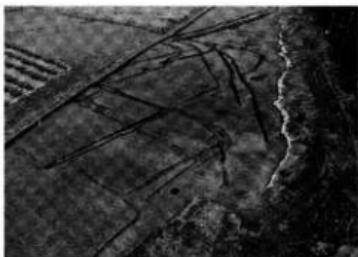
宮の前遺跡 位置図



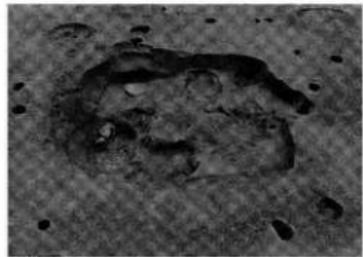
1・2号住居跡及び掘立柱建物群



宮の前遺跡全景（南より）



4～9号溝



1号住居跡



2号住居跡

各村のあいだ

所在地 北巨摩郡長坂町長坂上条621-2 外
 事業名 酪農試験場整備
 調査期間 1996年4月15日～11月13日
 調査面積 3,000m²
 担当者 保坂康夫・村松佳幸

酒呑場遺跡はJR中央線長坂駅から南へ1.25km下った、大深沢川と宮川に挟まれた舌状台地上の、標高690～710mに位置する。1994年から調査が開始され、今年度で第3次調査となる。



露天場遺跡 位置圖

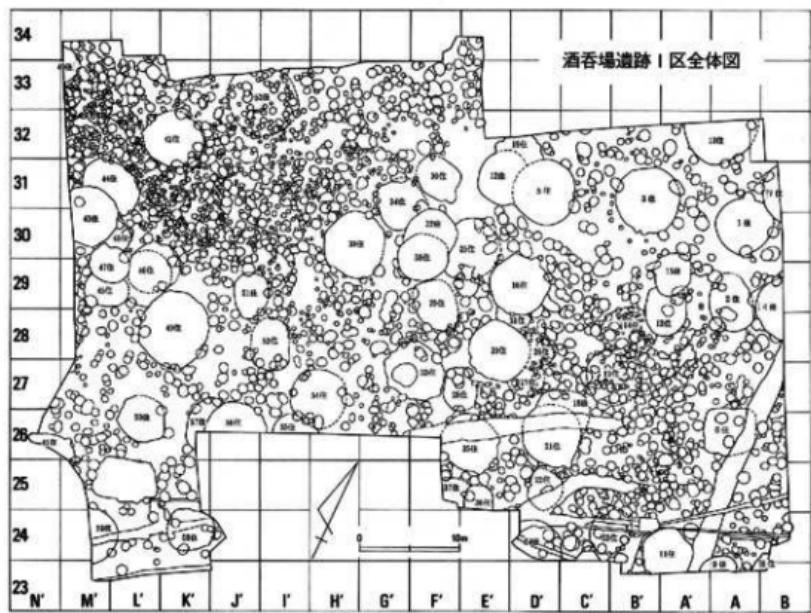
昨年度調査区C区のすぐ南側に搾乳牛舎が改築されるため、その範囲を昨年度からの続きでI区として発掘調査した。昨年度までの調査の結果、縄文時代では前期後半・中期前半・中期後半・後期前半の集落が確認され、特に中期の集落は大環状集落であることが分かった。そして、I区において、縄文時代前期後半・中期前半・中期後半の集落が重なりあってると推定され、今年度の調査でそのことが確認された。

発見された遺構は、繩文時代前期後半の住居跡10軒・中期前半の住居跡47軒・中期後半の住居跡2軒・土坑約1800基・配石遺構9基・屋外埋甕13基、古墳時代の掘立柱建物跡1棟、古墳時代の掘立柱建物跡の柱穴と思われるピット1基、中世または近世のものと思われる溝1条である。配石遺構・屋外埋甕は主に中期末葉のものであり、中期前半集落の上に構築されていた。

出土遺物は、縄文時代前期から中期の土器・石器がプラスチックコンテナ（約40ℓ）にして約700箱分出土しているが、土偶・土鈴・さじ形土製品・块状耳飾・土製耳飾・垂飾などの特殊遺物も出土している。その中でも男性性器をかたどった土棒（男根状土製品）が出土しており注目される。前期後半の第2号住居跡の床面から1~2cm浮いたところから出土したのだが、その住居跡内には墓壇と思われる土坑があり、それと住居跡が一緒に埋められていた。そのような出土状況をみると、土棒は葬送儀礼に関わるものではないかと思われる。土棒（男根状土製品）は、全国的に見ても数例しか確認されておらず、しかもそれらは縄文中期以降、特に後期に多く見られるもので、今回出土したものが国内最古のものであろう。

また、第10号住居跡の南側壁際から、直径約26cmの盤状台形土器と人頭大の粘土塊が並んで出土した。そして、すぐ脇の土坑の中からも、直径約18cmの盤状台形土器とそれと同じくらいの大きさの粘土塊がセットで出土した。盤状台形土器と粘土塊がセットで出土することも珍しいのに、そのセットが2組も同じ住居跡から発見されたことは大変貴重である。

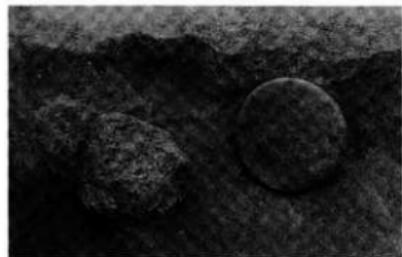
他にも、県内2例目となる「の」字状石製品や、製品にはなっていないが県内4例目の琥珀、昨年度調査に続いて漆塗り土器、そして、本遺跡では初めてとなる旧石器時代の石刃が1点出土している。



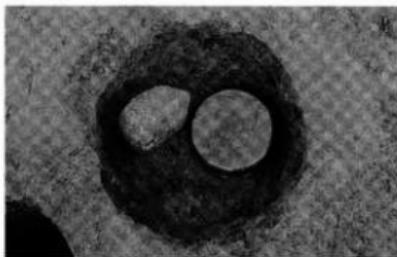
土棒 出土状況



住居跡 調査風景



盤状台形土器と粘土塊（第10号住居跡南壁出土）



盤状台形土器と粘土塊（第10号住居跡ピット出土）

7. 十五所遺跡

所在 地 中巨摩郡檜形町十五所吉田
事 業 名 一般国道52号改築工事

調査期間 1996年4月15日～12月26日
調査面積 12,000m²

担当 者 米田明訓・保坂一英

十五所遺跡は甲府盆地西部の中巨摩郡檜形町に所在し、檜形山を望む御勅使川扇状地の北西から南東に向かって広がる緩やかな傾斜地上の標高約290m付近に位置している。

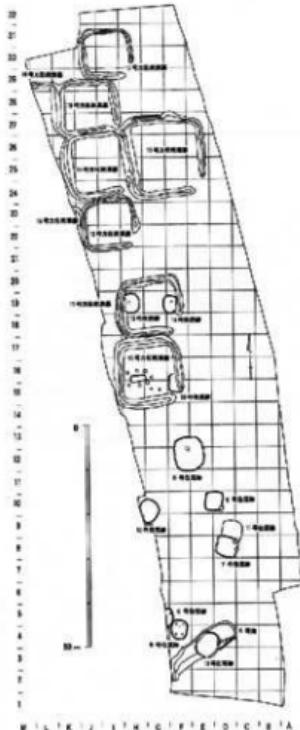
発掘調査は国道52号（甲西バイパス）の改築工事と中部横断自動車道の建設工事に伴い、平成6年度から平成8年度までの3年間にわたって実施された。昨年度までは県道甲府檜形線の北側が調査区域であったが、本年度は県道以南を発掘した。また、本年度調査区域を二つに区分し、県道甲府檜形線の南70m付近を東西に走る町道より南をⅢ区、可道より北をⅣ区とした。発掘はⅢ区の南端より、地表から深さ約1m50cmで掘り始め、Ⅲ区終了後にⅣ区の発掘を同様に南端より行った。

その結果、本年度分調査区域から、古墳時代と平安時代の住居跡がそれぞれ9基と2基の合計11基、弥生時代後期の方形周溝墓が9基発見された。過去3年間の十五所遺跡全体での遺構をまとめると、総調査面積25,300m²の調査区域から、古墳時代と平安時代の住居跡15基と、弥生時代後期の方形周溝墓18基の遺構が確認された。このようにまとまった数の方形周溝墓が富士川以西の峠西地域で発見されたのは、初めての発掘例である。

方形周溝墓は死者を埋葬するための墓壙を囲む正方形の溝状造構の形状や陸橋部に特徴があるが、本遺跡で確認された方形周溝墓の多くは、溝状造構の長さがおよそ10m前後で、各辺の方向は四方位にはば沿っている。さらに、いずれの方形周溝墓も一つの陸橋部を四隅のどこかに持っている。この平面形態は、山岸良二（『原始・古代日本の墓制』1991、同成社）による関東地方（一部中部山岳地帯）の弥生時代後期「多様なタイプ混在期」



十五所遺跡 位置図

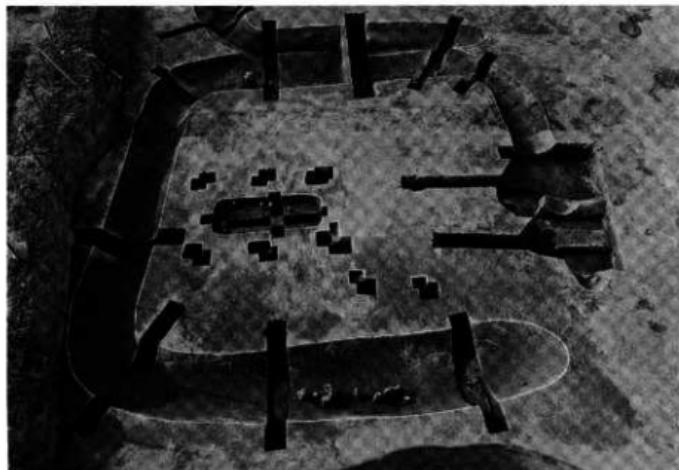


十五所遺跡 III区 全体図

に属すると思われる。また、数多くないが、底部に穿孔をもった小型壺型土器などが出土し、それらは葬送儀礼に使用されたことが想像される。たとえばIV区D 3から出土した壺形土器の一部は推定高さ約11cm・直径10cmの小型土器で、底部に焼成後に開けられた1.8cm×2.3cmの長方形穿孔が有った。

発見された9基の方形周溝墓のうち、10号方形周溝墓（以下、10号墓と略記）では本遺跡唯一の墓壙を確認した。10号墓は一辺約16m、陸橋部は南東隅にあり、その中心よりやや西よりに幅約1.1m・長さ約3.5mの墓壙があった。墓壙底部の壁面や底面には赤い焼土があり、底面の西部には板状の炭化物がまとめて発見された。この炭化物が棺の一部か敷物であったかは定かではなく、分析の結果が期待される。また、この墓壙は周囲に6つの四角い柱穴を伴っており、注目を集めた。墓壙の南北に3つずつ造られた穴は、その中心から隣の穴の中心まで丁度2m間隔で造られていた。これらの柱穴は、遺体を正式に埋葬するまで仮に安置する上屋を設けるためのものであった可能性が高いと思われる。いわゆる「殯」の風習がすでに存在していたのかもしれないことが想像された。このような発見例について、本センター大塚所長は「東日本では初めてではないか。四角い柱穴は西日本でも例がないと思う。」と述べている。

なお、本遺跡南に隣接する村前東遺跡では弥生時代後期の住居跡の確認はされたが、方形周溝墓が全く発見されていない。そのことから弥生時代後期に限って言えば、村前東遺跡が弥生人の住居域で、十五所遺跡が墓域であったと考えられる。



10号方形周溝墓全景（南上から）

8. 村前東A遺跡（Ⅲ区）

所在地 中巨摩郡横形町十五所字村前東297外

事業名 一般国道52号改築工事

中部横断自動車道建設工事

調査期間 1996年4月15日～12月26日

調査面積 12,000m²

担当者 三田村美彦・雨宮信仁

本遺跡は、甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高約280mに立地している。本年は、中部横断自動車道インターチェン

ジ建設予定地内のうち、町道10号線南側の昨年度調査であった箇所をⅢ区と呼称し行った。本区は昨年度までに、近世から平安時代の調査を終了しており、今年度は古墳時代（3面）以前の文化層の調査となった。以下、各時代毎に概観してみたい。

3面では古墳時代の住居跡24軒・掘立柱建物跡1棟が検出された。住居跡は調査区西側とほぼ中央に集中する傾向がみられ、その多くが複雑あるいは、隣接して構築されている。プランは一辺約5～7mの正方形を呈すものが主体となり、4本の主柱穴と炉跡が確認されるものが多い。炉跡は地床炉で、浅い掘り込みに粘土を貼ったいわゆる火皿をもつものや、縁辺の一部に凸堤を持つものが認められた。また、住居跡のコーナー付近には貯蔵穴と思われる凸堤の巡る土坑が検出されたものがある。掘立柱建物跡は群在する住居跡からやや離れた、調査区の北側で3×2間のものが1棟検出された。検出された遺構からは、壺・甕・ヒサゴ壺・高坏・器台・手焼き形土器など古墳時代前期に比定される古式土師器が多数出土している。これらのなかにはS字状口縁台付壺など、非在地系の土器が多く含まれている。

4面では昨年度検出された弥生時代水田跡の畦畔と思われる遺構の広がりを確認する作業を行ったが、今年度の調査区からは検出されなかった。また隣接するV区から、水田跡確認面よりさらに下層で、弥生時代中期に比定される条痕文土器の包含層が検出されたことから、本区でもその確認調査を行ったが、検出には至らなかった。しかし、V区で確認された層位の状況から、水田跡の構築時期が古墳時代前期以前、弥生時代中期以降には限定できるという成果が得られた。

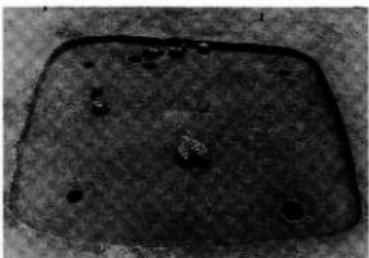
1990年度から開始した村前東A遺跡の発掘調査も、本年ですべて終了することとなる。インターチェンジ部分の調査ということで面積も広範囲にわたったが、確認された遺跡も大規模なものであった。また、弥生から近世に至る様々な遺構が層位的に検出され、その性格も多岐にわたる。これから本格的な整理作業を開始するが、各時代ごとに検討しなければならない問題が山積しており、遺跡の実態にどこまで迫れるか、今後の大きな課題である。



村前東A遺跡 位置図



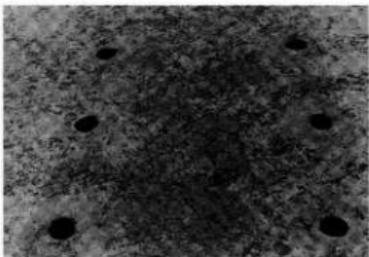
古墳時代住居跡（139号住）



古墳時代住居跡（146号住）



古墳時代住居跡遺物出土状況



古墳時代掘立柱建物跡



村前東A遺跡Ⅲ区 全景

9. 村前東A遺跡（V区）

所在 地 中巨摩郡檍形町十五所字村前東297外
事 業 名 一般国道52号改築工事
中部横断自動車道建設工事
調査期間 1996年4月15日～12月26日
調査面積 17,850m²
担 当 者 石神孝子・清水裕司

本遺跡は、甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高約280mに立地している。本年度は、中部横断自動車道インター工事・平シジ建設予定地内のうち、町道10号線北側をV区として行った。本区では近世以降（1面）・平安時代（2面）・古墳時代（3面）・弥生時代（4面）の4枚の文化層が確認された。以下、時代毎に概観してみたい。

1面では、近世以降に構築されたと思われる溝状の遺構が検出された。このうち、掘り方のしっかりした溝状遺構の覆土には、砂礫が堆積しており、御勅使川の氾濫の影響を想起させるものである。遺物は、古墳・平安時代の土師器から近世陶磁器の破片が僅かに出土したにすぎず、詳細な時期を決定するには至らない。

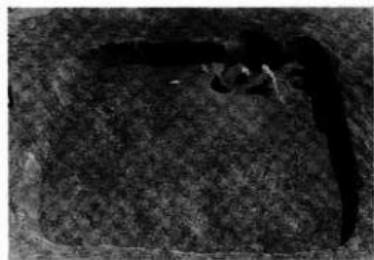
2面では、平安時代の住居跡10軒、掘立柱建物跡1棟が確認された。これらの遺構は調査区域南側半分に分布し、北側では確認されていない。住居跡は一辺2～4mを測る方形プランとなり、竪は東壁の中央から、南東コーナーにかけて構築されるものが多い。掘立柱建物跡は3×3間となる。遺物は主に住居跡から、土師器壺・甕・須恵器壺のほか、紡錘車・鎌等の鉄製品が出土している。

3面では、古墳時代の住居跡が5棟検出された。いずれも調査区の南側で確認されており、北側は平安時代同様遺構の分布はみられない。プランは一辺3～5mを測る方形となり、4本柱主柱穴となるものが多い。炉跡は床面を若干掘り込んだ地床炉の他、縁辺の一部に環を配するものがある。住居跡からは古墳時代前期に比定される壺・甕・高壺などが出土している事から、町道10号線を挟んで南側のⅢ区で確認された、当該期集落の一部と考えられる。

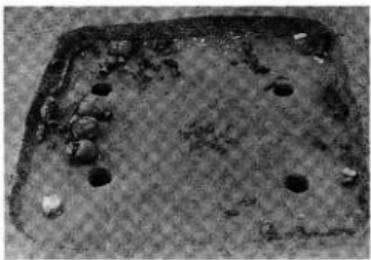
4面では、弥生時代水田跡の確認を行ったが、本区では検出されなかった。しかし、水田跡確認面よりさらに約2m下層から、弥生時代中期に比定される条痕文土器の包含層が確認された。本層は、暗褐色を呈する粘性の強いシルトで一部砂礫層に浸食されており、残存状況は悪く構築と思われる落ち込みは認められない。出土した土器は、いずれも外面に条痕を施す脣部破片で、点数も十数点と少なく器形の窺えるものは皆無である。ただ、今回の調査で、昨年IV-a区で検出された水田跡の時期が弥生時代中期以前、古墳時代前期以前に構築されたことが確認されたことは大きな成果であった。



村前東A遺跡 位置図



平安時代住居跡



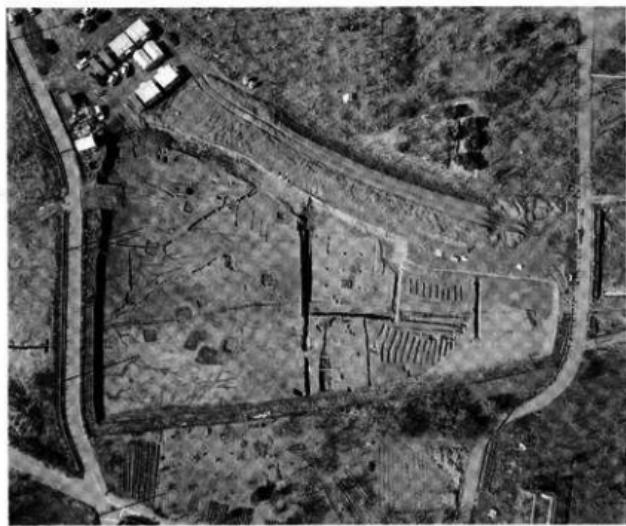
古墳時代住居跡



古墳時代住居跡遺物出土状況



作業風景（弥生時代）



村前東A遺跡V区 全景

10. 鍋沢河岸跡

所在地 南巨摩郡鍋沢町鍋沢字明神町地内

事業名 富士川改修

調査期間 1996年5月8日～8月8日

1996年10月7日～11月29日

調査面積 約3,000m²

担当者 新津 健・萩原孝一

甲府盆地の南端、富士川中流右岸に位置する鍋沢河岸跡は、標高約245mを測る。本遺跡は、富士川改修に伴うものである。

鍋沢河岸は、江戸時代に開かれた富士川水運の三河岸（鍋沢・黒沢・青柳）の一つとして知られ、岩渕～蒲原～清水を経て江戸藏前に至る年貢米の輸送に大きくかかわった。明治時代になると、富士川運輸会社を始めとして、いくつかの水運会社や陸運会社が設立され、山梨のみならず長野県南部をも含めた交通・経済の要所として栄え、特に明治20年代から30年代前半がその最盛期であったと伝えられている。しかし、明治36年の中央線、昭和3年の富士身延鉄道の全通により、輸送拠点としての任務を終えた。

今回の発掘調査では、主に三つの生活面が確認された。これらの面は硬く踏み固められており、かつての地表面であったことが分かる。まず最も上層にある第一面は、現在の地表下約1mの深さのところに広がっており、蔵の入り口と見られる石敷（一号建物）や水路跡、それに道と思われる石列などが確認された。これらの建物が壊された跡からは、著しい量の陶磁器や目薬・ビール・牛乳・糊などの瓶類、硯・水滴・石盤・石筆などの文具、キセルの雁首、かんざし、泥面子などのおもちゃなど、当時の風俗を物語る遺物が多数出土している。

第二面はさらに50cmほど下がったところにあり、ここからは礎石をともなった建物跡が確認された（二号建物）。赤瓦が散乱していることから瓦葺きの建物であったことがわかる。この建物の全面（南側）には、土手状の高まりが何筋も並んで発見されたが、これは野積の荷物置き場と推測される。全面から陶磁器や古銭が出土している。

第三面はさらに30～40cm下である。特に、2号建物の下には一回り小さい2×3間の範囲に礎石が並んでおり、これを3号建物とした。この建物の西側や南側は庭になっており、第2面と同様の荷積用の高まりが規則正しく並んでいる。

これら三つの生活面の時代は、陶磁器や古銭などから判断して、第一面が大正時代から明治後半頃、第二面が明治前半期、第三面が江戸時代のものと考えられる。特に第三面の3号建物から



鍋沢河岸跡 位置図



鍋沢河岸跡を北東から眺む

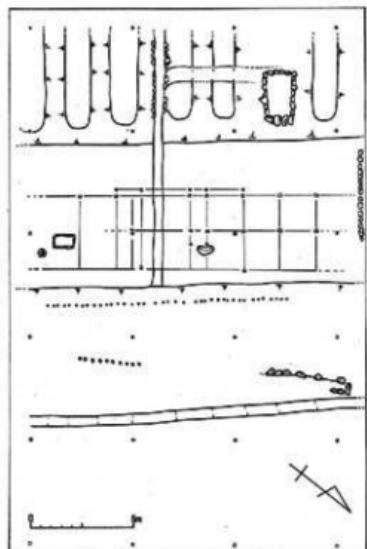
は、18世紀後半と見られる「くらわんか鏡」が出土している。また、古錢については、第一面と第二面とからは「一錢」「二錢」銅貨が出土するのに対して、第三面からは「錢」貨は全く出土せず、すべて「寛永通宝」となる。

さらに、建物など施設の性格については、第三面が甲府代官所米蔵にかかる御藏台、第二面と第一面とが御藏台を引き継いだ富士川運輸会社の倉庫施設という見方ができる。特に御藏台とした理由は、第三面建物の北側に杭列が走り、ここから急傾斜で1m程下がり再び杭列が走るといった施設が見つかったからである。御藏台とは周囲より一段高く土盛りされた場所を指し、なおかつ矢来で囲まれていたと伝えられているからである。この杭列の外側には3尺から一間幅の道の跡が重なって確認された。船着き場に至る道と考えられる。

以上の各面や諸施設は、幾重にも細かい砂の層に覆われておおり、何度も水害を受けたことがわかる。今後の整理作業や文献資料等の検討から、河岸施設の復元が期待される。



鉢沢河岸跡 調査区全景



鉢沢河岸跡 全体図（略図）

11. 宮沢中村遺跡

所在地 中巨摩郡甲西町宮沢字東宮沢

事業名 一般国道52号改築工事

中部横断自動車道建設工事

調査期間 1996年7月1日～11日 11月26日～
12月16日

担当者 新津 健・萩原孝一

調査面積 300m²

本遺跡は富士川右岸の標高244mの沖積地に位置する。通称甲西バイパスの建設に伴いこの遺跡は既に平成6年度に発掘が実施され、江戸時代後期の村と寺および中世前半期（鎌倉時代）を中心とした遺跡であることが確認されていた。今年度の調査は、前回移転が済んでおらず調査できなかった墓地部分である。

わずかな調査区域ではあったが、江戸時代の寺跡（大正年間に現位置に移転された法淨寺）の本堂部分に該当しており、その礎石の大半が発掘された。前回調査の成果と合わせて、6間×4間の建物規模が確認できた。出土遺物は染め付け磁器や土器類、それに五輪塔部材などである。また、本堂の北側から横倒しの桶に埋葬された人骨も確認できた。



宮沢中村遺跡 位置図

12. 梅平本田遺跡

所在地 南巨摩郡身延町梅平字本田

事業名 一般国道52号改築工事

調査期間 1996年8月27日～10月8日

担当者 新津 健・萩原 孝一

調査面積 600m²

本遺跡は、富士川の支流、波木井川の右岸に発達する河岸段丘上に位置する。付近には町史跡に指定され、昭和57年に発掘調査の行われた南部氏館跡がある。今回の調査区域は通称身延

バイパス建設に伴う平成7年度の試掘調査で発見されたものである。

調査の結果、平安時代から中世初頭と見られる、鍛冶遺構1、建物跡2、柱穴列2などの遺構が発見された。鍛冶遺構は調査区外に延びることから半分が調査できただけであるが、床面中央の穴から鉄滓や鍛造剥片が多く出土している。遺跡全体からの出土遺物は少ないが、平安時代の甲斐型壺や壺の破片、中世渥美系や常滑系壺の破片などが出土した。発掘例の少ない河内地域にあって、古代の川合郷や南部氏の実態を知る上での資料を提供した。



梅平本田遺跡 位置図

13. 音羽遺跡

所在地 甲府市音羽町4番

事業名 音羽県職員宿舎建設工事

調査期間 1996年9月3日～12月26日

調査面積 約1,050m²

担当者 田口 明子・米山 真

甲府盆地北部の荒川左岸に位置する音羽遺跡の発掘も、今年度で3回目となった。これまでに発見された遺構は、弥生時代後期・古墳時代後期～奈良時代初頭の住居跡8、土坑14、溝状遺構13である。今年度は、1、2回目の中间に位置する地区を発掘調査し、古墳時代後期～奈良時代初頭の住居跡2、土坑10、溝状遺構12、他に集石3、焼土跡1などを確認した。

2号住居跡は、東西約4.5m、南北約3.9mのやや東西に長い隅丸方形を呈する。カマドは北壁の東よりにあったと思われるが、焼土と粘土が面上に残っているのみである。壁は、確認面からの深さ約10～35cmである。遺物は甕の破片が出土している。3号住居跡は、南壁を確認できなかつたため、南北の規模は不明だが、東西約4.3mの隅丸方形と思われる。確認面からの深さは約5cmである。カマドは北壁の中央よりやや東側にあるが、西側は後世の擾乱を受けている。遺物は甕・鉢、壺の破片などである。4号土坑は、90×70cmのほぼ円形を呈し、覆土中に4個体の土器がつぶれたように発見された。まず、口縁部と底部が欠けている壺が横位にあり、その上に口縁が欠損した壺が逆位に被さっている。その脇には鉢が横位にある。また、下の壺の横には口縁部の欠けた甕が横位にある。

遺物は縄文時代前期から後期、弥生時代後期、古墳時代後期から奈良時代初頭にかけての土器と石器が出土した。昨年度と同じく、多数の昆虫遺体が発見され、本遺跡の自然環境を知る上で大きな手がかりとなるだろう。



音羽遺跡 位置図



調査区 全景



4号土坑

14. 甲府城跡（県指定史跡）

所在地 甲府市丸の内1丁目5番地内

事業名 舞鶴城公園整備

調査期間 1996年4月8日～1997年3月31日

調査面積 約7,000m²

担当者 八巻與志夫・飼田 哲

舞鶴城公園整備事業に伴う県指定史跡甲府城跡の発掘調査も本年度末で満7年を迎える。

本年度は稻荷曲輪檜台・北腰石垣、本丸、鉄門下階段、中ノ門、銅門南腰石垣、内松陰門などで調査を行い、一部は継続中である。以下に本年度調査の概要をまとめるが、内容については1997年2月現在のものであることを断っておく。

まず昨年度から継続して行った稻荷曲輪檜台の造構調査を挙げてみたい。稻荷曲輪とは、県立青少年科学センターが建っている一画を称し、檜台はこの施設の北側に位置する。この台上では、密教法具である「輪宝」が5点、検出された。このうち1点は、原位置から移動している痕跡があるが、残りの4点は、いずれも台上に存在した檜の母屋の部分にあたる礎石の下から出土しており、檜建築の際に行った地鎮のための鎮壇具として使用されたものとみられる。この檜の建築時期、及び「輪宝」の使用時期については、檜台西面石垣解体に際して、裏側から崩落痕のある旧石垣が検出されたこと、解体前の石垣面は江戸中期の絵図には既に確認されること、解体した石垣の根石下より浅野家の家紋である「違い鷹の羽」紋を有する鬼瓦が検出されたことなどから、崩落した石垣の上に存在した檜は築城期のものであり、その建築に先立つ「輪宝」も築城期のものであると判断できる。

また稻荷曲輪を取り囲むように築かれている腰石垣のうち、県立青少年科学センターの北、前述の檜台の南に当たる部分より、石垣解体に伴って旧石垣面、及び旧合板が検出された。現在、公園東からスロープ状に設置されている出入口は、大正年間、謝恩碑建造の際に開設されたものであり、江戸期の絵図では出入口は確認されないが、検出された旧石垣面は檜台と腰石垣が元来分離しており、ここ虎口があったことを示す。解体した石垣面の状態を考慮すると、築城後、石垣構築技術の差が生じない時期に縄張りの変更が行われていたことを実証するものである。また旧合板についても、江戸期の絵図では確認できず、周囲の状況から前述の旧石垣面が埋め殺されたのと同時期に封印されたものであろうと思われる。

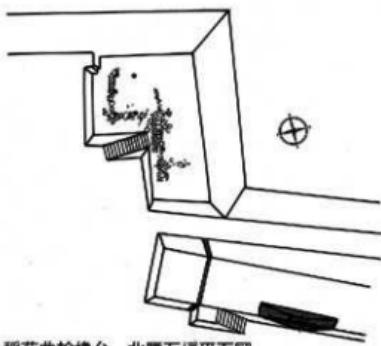
次に本丸における調査を挙げる。本丸とは、天守台の西下に位置する区画を言い、江戸期の絵図では中央部に御殿が確認できる。当初、江戸期の生活面を発掘していたが、礎石等、建物の遺構は皆無であった。しかし、地山もしくは築城当初の地表面と考えていた層の下方より金箔瓦を検出したため、改めて縦横断に試掘を行ったところ、金箔瓦を有する層が数層ごとに点在し、また岩盤に近い層には、築城期のものと考えられる瓦が多数存在していることが明らかになった。更には大量の石材が岩盤から切り出された痕が確認され、岩に刻まれた矢穴は、いずれも築城当



甲府城跡 位置図



稻荷曲輪櫓台出土「輪宝」



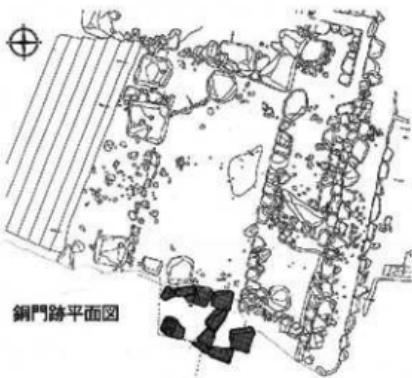
稻荷曲輪櫓台・北腰石垣平面図



稻荷曲輪北腰石垣「旧石垣」



稻荷曲輪北腰石垣「旧合板」



銅門跡平面図



銅門南腰石垣解体前



銅門南腰石垣解体分出土「旧石垣」及び「礎石」



銅門南腰石垣解体直後

初のものとほぼ同様の大きさを有していた。前述の稲荷曲輪の縄張り変更の痕跡と同じ、築城後、比較的早い時期に本丸中央部が掘削され、岩盤から石材を切り出し、その後の大穴に大量の瓦が埋め、再造作した可能性も考えられる。なお、本丸の調査は継続中で、現在、中央部全体を一層ずつ掘り下げ、試掘によって確認した面ごとの精査を行っている。

この他、鉄門下階段、中ノ門、銅門南腰石垣、内松陰門などで調査を行ったが、それぞれについて簡単に述べてみたい。

鉄門とは、本丸の南出入口を言う。鉄門下階段は、鉄門と天守曲輪を直接結ぶ通路である。花崗岩によって構築された現在の階段は近年のもので、元来の階段面は鉄門の礎石の位置から考慮して、現在より 20° ほど傾斜していたと思われる。本年度は東半分の現階段を解体し、調査を進めたが、現階段を設置する際に掘削されたおり、遺構の確認は不可能であった。

中ノ門とは、鉄門から天守曲輪に降り立ち、西に折れ下る通路にあった。ここからは門柱の礎石跡とみられる直径約80cmの穴の確認され、また門の際の雨落側溝とみられる石組水路、更に天守曲輪に登る階段のうち3段ほどが確認された。なお現状では天守曲輪から議員会館に向かう通路は、スロープ状に緩やかな左カーブを描いているが、元来は直線的な通路であったことも確認されている。

銅門とは、本丸の西側出入口を言い、二重の櫓門であったとされている。南腰石垣は、この櫓が載る石垣である。現状の東面石垣は、後世の積み直しであるため解体したところ、北東隅よりクランク状に積まれた旧石垣面が検出され、銅門の礎石1石と、門の材料であろう鉄釘2点、そして礎石を覆うように焼土が確認された。検出された旧石垣面は過熱によって破碎しており、文献によって知られる享保12年の火災を裏付けるものと判断している。しかし火災を受けた痕跡のある旧石垣は、築城期のものではなく、その後、更に確認された旧石垣面などを考慮すると、同所は数回にわたって改修されていることが推測される。

内松陰門とは、銅門下の階段を下り、北に折れて櫓門をくぐり、階段を下り、更に西に折れて階段を下りたところに存在した。現在、武徳殿が立っている区画（二の丸）の北方である。門のものと思われる礎石1石と、柱穴1穴が確認されている。石列も確認されたが、石列の一部には、転用された礎石が認められたため、後世のものであると判断した。

以上、7年目の時を終えようとしている今、本年度調査の概要を記してきた。なお調査はまだ、数年にわたって継続される。



本丸中央部調査風景

いきわこうこうじゅうへん
15. 石和高校周辺遺跡

所在地 東八代郡御坂町成田1951-2外
東八代郡石和町市部3外

事業名 県立石和高等学校グランド拡張整備

調査期間 1996年5月20日～7月12日

調査面積 1,059m² (10,866m²)

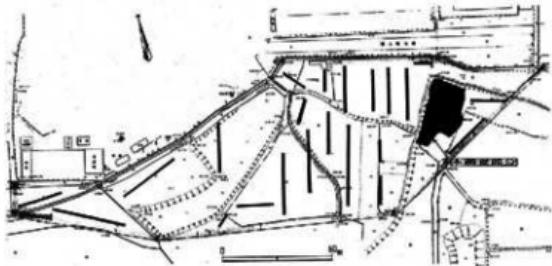
担当者 高野玄明・雨宮芳夫

笛吹川氾濫原に接し、西北方向へ傾斜する金川扇状地の末端部、標高274m付近に本遺跡は立地し、周知の遺跡である石和高校周辺遺跡の西南部にある。今回の調査は、グランド整備事業に伴い、調査区全体に範囲確認調査の為、試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認し、遺構・遺物が確認されたトレンチについては、トレンチ周辺を拡張して、調査を行うことにした。その結果、調査区東側中央付近の微高地の黒色土中から、遺構・遺物が検出されている。微高地以外の箇所については、深さ40～70cm程で青色砂層や湧水が伴うなど、遺構・遺物は全く検出できなかった。しかし、微高地については、弥生時代後期～古墳時代前期の壺型土器・甕型土器片を中心とし、中には縄文時代の土器片・石器・打製石斧などや、平安時代・中世の土器片も確認されているが、遺構には伴っていない。確認された遺構については、土坑が1基検出されており、長径1.9m、短径1.3m、深さ0.6mを測り、土坑内覆土中には、20～40cm程の礫が70点ほど、土坑上面から底部に至るまで検出されており、中には石臼（下白部1／2欠損）や、土師質土器片や古銭が出土している。古銭は「熙寧元寶」（北宋銭、初鑄1068年）が一枚検出されている。これらの出土遺物から、中世の所産と考えられるが、土坑の性格は今のところ不明である。

今回、検出されたほとんどの土器片は、いずれも遺構に伴っておらず、さらに縄文時代から中世に至るまで、ほぼ同一レベルでの出土のため、付近からの流れ込みによる可能性が高い。このことは、土器の磨滅の状況からも窺える。



石和高校周辺遺跡 位置図



石和高校周辺遺跡トレンチ配置図

16. 桂野遺跡

所在地 東八代郡御坂町大字上黒駒字桂野大
道上1888外

事業名 国道137号バイパス（御坂バイパス）
建設

調査期間 1996年10月7日～12月25日

調査面積 約1,200m²

担当者 小野正文・熊谷栄二



桂野遺跡 位置図

本遺跡は、甲府盆地の東部に連なる御坂山塊の北西緩斜面に位置し、金川の左岸にある。

標高は525mを測り、右岸には「黒駒土偶」として有名な中丸遺跡が存在する。

桂野遺跡は、周知の遺跡として町内の上黒駒・下黒駒など広範囲にわたって展開している。昭和30年の土木工事の際に、縄文時代中期の井戸尻式～曾利式の土偶・土製円盤・顔面把手などの遺物や住居跡1軒、炉跡2基が確認されている。昭和51年には本遺跡の南側下黒駒平石地区において、甲斐丘陵考古学研究会によって発掘調査がおこなわれ、桂野平石遺跡と名付けられている。なおこの遺跡では、縄文時代中期前葉の新道式期土器とともに住居跡1軒が確認されている。

本遺跡は昭和63年に開通した中央自動車道一宮・御坂インター供用により建設された国道137号のバイパスの延長線建設に伴う事業であり、平成7・8年度の2回の試掘調査によって対象となった約9,000m²のうち今年度は約2,500m²を対象に行った。

調査は、未買収の部分を挟んでA区・B区に分け、5m×5mのグリッドを設定した。

調査の結果、A区約1,200m²から縄文時代中期前葉五領ヶ台式期の土器・土偶片および石器等の遺物約50,000点余りを検出した。調査区の約1/3は南東から北西にかけて谷を形成し、遺物の大多数はここから出土したものである。谷部は上部と下部との差が2.5mほどあり、そのため土壤が入り込んでいるため安定せず、住居跡などの遺構確認は困難であった。遺物包含層は厚く、最終的にちどり形に3グリットを深掘りし、遺物が存在しないことを確認して終了した。なお、B区は表土を剥いで住居跡1軒の存在を確認した状況で次年度へ繰り越した。



桂野遺跡 (A区) 全景

いちらのつば
17. 一ノ坪遺跡

所 在 地 塩山市熊野字一ノ坪27外

事 業 名 県営塩山熊野団地建設

調査期間 1996年4月15日～5月20日

調査面積 1,000m²

担 当 者 小野正文・熊谷栄二

本遺跡は甲府盆地東部の重川と塩川に挟まれた塩川の河岸段丘上に位置し、その基盤は重川によって形成された扇状地の扇端部にある。標高は370mを測る。

昨年度は約2,200m²を調査し、縄文時代の住居跡1軒、土坑3基、平安時代末の住居跡5軒、小堅穴2基、溝5条、土坑9基、掘立柱建物跡1棟を検出している。本年度は昨年発掘調査部分の北約1,000m²を発掘調査した。

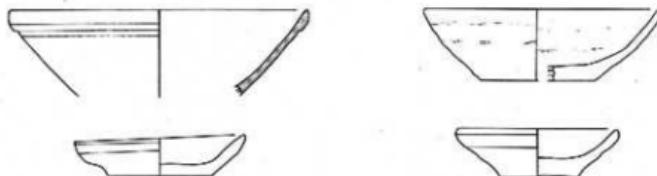
調査の結果、縄文時代の住居跡1軒、土坑6基、平安時代末の住居跡2軒、土坑29基、ピット群を検出しているが、掘立柱建物跡になるような連続性のあるものはない。昨年度の3号溝に続く溝1条を検出している。この溝は公共座標系とはほぼ一致していることから、真北に伸びていることになる。平安時代末になるSB-08（8号住居跡）は鉄製品の鎌、舶載の白磁、土師器の壺など出土があり、白磁の様相は韭崎市中田小学校遺跡14号住居跡と類似しており、灰釉陶器の減少とともに舶載白磁の搬入が見られるという現象が窺われる。

なお、遺跡全体をほぼ南北に貫くSD-03（3号溝）廃止後、SB-07（7号住居跡）を構築していくことが判明しているが、塩川から流入したこれらの水路と平安時代末の一ノ坪集落との関係は、前後関係、機能の問題は本報告で解明してゆきたい。

縄文時代では、SB-09（9号住居跡）が昨年調査したSP-10（10号土坑）とよく類似した小堅穴遺構である。炉跡や柱穴は確認されなかったが、縄文前期諸窯b式期の出土遺物は割合豊富であった。なお、調査区域の北端に底部穿孔壺蓋がまったく遺構を伴わず単独で検出された。



一ノ坪遺跡 位置図



一ノ坪遺跡 SB-08出土白磁と土師器 (1:3)

18. 遺平バイパス関係遺跡 (諏訪前遺跡)

所在地 東山梨郡牧丘町室伏字西畑
事業名 国道140号（窪平バイパス）建設
調査期間 1996年5月13日～7月8日
調査面積 3,000m²
調査担当 長沢宏昌・宮里 学

遺跡の所在地は、牧丘町役場の北西1.3kmの地点で笛吹川支流琴川の左岸、南南東に傾斜する緩斜面に位置する。標高は調査区域内で588m前後を測る。

試掘調査の結果、遺構・遺物の分布範囲を3,000m²と確定することができ、重機による表土剥ぎを行ったのち上記の日程で調査を開始した。調査区域には、5m間隔の基準杭からなるグリッドを設定し、出土した遺構・遺物の平面的記録を行った。なお、基準杭の設定にあたって国土座標に準拠した。

検出された遺構は、弥生時代の土坑1基、屋外埋壺1基（弥生時代前期）の他土坑32基である。なかでも、弥生時代に属する7号土坑の覆土中からは、該当期の土器片のほかにケルミやドングリなどの炭化物が多量に検出され、今後の整理作業を経て同定作業を行う予定である。また、弥生時代中期の屋外埋壺について土壤のサンプリングをおこない、土壤分析を実施中である。

出土した遺物は、縄文時代から中世までの土器・石器類がコンテナ（容量30ℓ）に約5箱分で、弥生時代に属する遺物が最も多く全体の60%を占める。

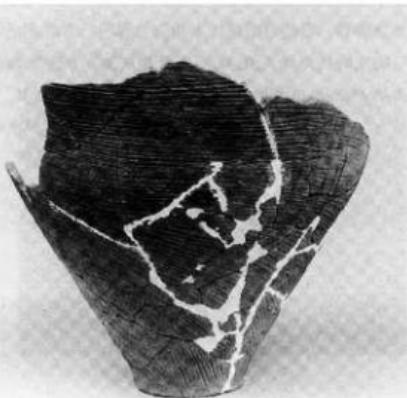
縄文時代に属するものは中期前半の土器を主体に石鏃・打製石斧・磨製石斧などが出土。4×0.8cm程度の延長の軸部分に穿孔が認められる土製品が出土している。

弥生時代の土器については破片資料が圧倒的に多く、個体資料になり得るのは弥生時代前期の屋外埋壺（上半分欠損）の壺形土器1点のみである。該当期の資料は県内でも少なく、今後の研究での資料的有効性は高いと思われる。

全体的には、遺物・遺構の分布は希薄ではあるが、弥生時代を主体とする調査事例は県内でも少なく今後の該期研究における重要な資料となろう。



諏訪前遺跡 位置図



1号埋壺（弥生時代前期）

19. 強瀬北遺跡

所在地 大月市賀岡町強瀬字上平地内

事業名 中央自動車道拡張

調査期間 1996年11月25日～11月27日

調査面積 2,000m²

調査担当 長沢宏昌・宮里 学

調査地点の所在地は、大月市役所の東南東1.5km、市立強瀬小学校の北300mの地点で、中央自動車道下り線の車線増加に伴う工事部分の発掘調査で、約2,000m²が調査対象面積である。

地形的には、相模川（桂川）とその支流葛川の左岸に位置し、岩殿山から連なる15°～30°の山地斜面に存在する。標高は360m前後である。この周辺の地質は、沼澤・土石流堆積物から成り、一部古富士山火山噴出物が堆積している状況であった。

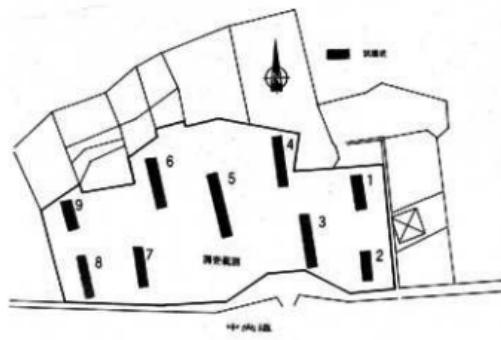
調査範囲は、現地踏査の結果現地表面から縄文時代に属する土器片が採取できた範囲と、工事予定区の重なりを検討し、調査対象面積を約2,000m²と決定した。

発掘調査については、上記の日程で開始した。一部立ち木等の都合で調査できない範囲が存在し、これを迂回して小型重機と人力で9ヶ所に8×3mの試掘坑を設定し遺構・遺物の分布範囲確認をしながら調査に着手した。

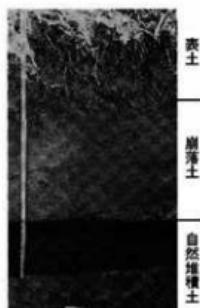
9ヶ所の試掘坑を調査した結果、この全ての試掘坑で現地表下1～2mの深さで、調査地点に北側斜面から滑り落ちたと考えられる崩落土が厚く堆積していることが判明し、遺構・遺物は確認されなかった。更に下層を掘削可能な深さまで調査を継続したが、粘土質の土壤が堆積し同様に遺構・遺物は確認されなかった。この状況から、表面採取された土器片は崩落土中に含まれていた物と判断した。



強瀬北遺跡 位置図



調査区域図



第2試掘坑土層断面

20. 古婦毛遺跡

所在地 東山梨郡勝沼町下岩崎512-1外

事業名 県営住宅建設

調査期間 1996年4月15日～8月30日

調査面積 5,963m²

担当者 村石真澄・土屋浩之

古婦毛遺跡は、京戸川扇状地の西北端に立地し、田草川・坂下川の両河川によって中州のように囲まれている。扇状地の扇頂部から扇尖にかけては、糸井堂遺跡群に代表される縄文時代を中心とした遺跡が豊富にある。また、中世の代表的な遺跡として岩崎氏館跡や勝沼氏館跡が近くに存在する。

県営住宅建設に伴い昨年度より調査が開始され、昨年度は、北側約半分を調査し2軒の住居跡を検出した。本年度は南側約半分の範囲の調査をおこなった。主な遺構として、埋甕と思われる埋設土器1基・住居跡3軒・水田跡約10枚を検出した。

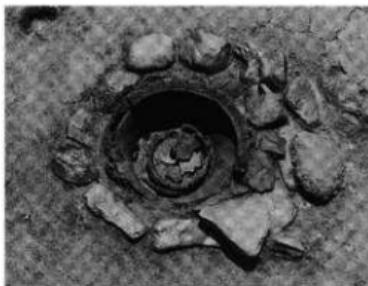
縄文時代の遺構としては、本年度調査区の北側で埋甕と思われる埋設土器(SZ-1)を確認した。石囲いされた土器が正位に埋設され、多くの土器片が埋設土器の周りと中から出土した。土器片は、埋設土器を支えるように周囲に設置されたり埋設土器に蓋をしたような状態で出土した。埋設土器は胴上半分だけで、底部を入れ子にしてあった。土器片は、埋設土器と同一個体のものと別個体のものを含んでいた。



古婦毛遺跡 位置図



埋設土器SZ-1(その1)



埋設土器SZ-1(その2)

住居跡は奈良時代のもの3軒を検出した(それぞれSB-4・SB-5・SB-6とした。場所は写真参照)。SB-4とSB-6は東カマドで残りもよかったです。SB-5は、やや小さめの住居跡で北東コーナーにカマドをもっていた。SB-4・SB-5は、住居跡から遺物がほとんど検出されなかった。

近世初頭のものと思われる水田跡は、坂下川の旧河道にあたる部分で確認した。水田面は、10cmから30cmにのぼる洪沢砂に覆われていた。水田面は調査区の最も西側の部分にも続きこの地域では当時大規模な稻作が行われていたと思われる。水田跡では計5本の大きな畦畔も確認され、畦畔の中に石積をした部分が何カ所かあった。水田面・畦畔の中ともに遺物は少なかった。水田面では、人間の足跡や馬・獸らしき足跡も確認できた。



水田跡発掘調査風景



古墳毛邊跡全景

21. 大月遺跡（第8次調査Ⅰ・Ⅱ区）

所在地 大月市大月2丁目11-20外
事業名 国道20号（大月バイパス）建設
調査期間 1996年6月5日～8月30日
1996年12月4日～1997年1月21日
調査面積 1,200m²
担当者 笠原みゆき・伊藤伸一



大月遺跡 位置図

大月遺跡は、桂川と笛子川との合流点から南東およそ600m地点に位置し、桂川に沿って走る国道139号に隣接する県立都留高等学校の敷地お

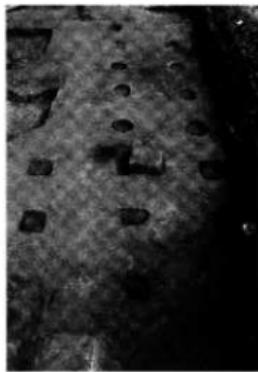
よりその周辺一帯に広がる縄文中期～後期・奈良～平安時代にかけての集落遺跡である。昭和2年以來、数回にわたって発掘調査がおこなわれている。富士山の噴出物の調査を目的として、現県立都留高校の校庭が調査され、この時の遺物の出土位置や状態が記載された報告が残っているので、この段階を第1次調査とする。以後、数えていくと今年度調査は第8次調査となる。今回の調査は、大月バイパス建設に伴う側道及び市道切り回し工事と本線部分の事前調査で、便宜的に前者をⅠ区（側道）、後者をⅡ区（本線）とし、Ⅰ区は工程上A・B・Cの3ヶ所に分けた。場所的には、敷石住居跡が軒検出された第6次調査区の南側で、土偶などが出土した第7次の調査の東側に位置する。なお、これと並行しておこなわれた大月市教育委員会による調査を第9次調査とする。

調査の結果、Ⅰ区（側道）では、土坑15基・焼土2基・集石1基・列石1基・ピット数基が検出できた。山際からⅠ区-AとBの埠目にかけては、地表面から0.7～1m掘り下げると地山が広がり、この周辺を先端として北側に傾斜する地形が観察できた。この傾斜し始める先端から有舌尖頭器が2点出土している。残念ながらこれらに伴う土器が発見されていないため、時期の確定には至らないが、県内の出土例でも有舌尖頭器が単独で出土することのほうが多いらしい。

Ⅱ区では、Ⅰ区より更に山側へ近づくため表土が浅かった。しかし、集石2基・配石遺構3基・焼土土坑1基・ピット群等が検出されている。集石は、浅目の土坑に川原石を詰め込んだようなものと、多少だが粘土を石の間につめてたたせるように配置したものがあった。強い火を受けた形跡はほとんど無く、いずれも用途が不明である。配石遺構は、L字やコ字型で拳大～人頭大までの礫を並べるものであり、掘り込みや時期が確定できるような遺物は発見できなかった。調査区西南隅では表土剥ぎの段階で地山が確認できていたので、この地山は追っていくとⅠ区-Cの方向に向かって傾斜する地形がわかった。Ⅰ区-Aで見られた地形とⅡ区西側に礫を持つものを合わせてみると、大月遺跡の中には、幾つかの小さな谷が形成されているのではないかと推定される。今回の調査では、特筆する遺構や遺物の発見は少なかったが、大月遺跡全体の地形の復元と遺跡の範囲を確定するのに役立つ成果が得られたと考えられる。



I-B区 調査風景



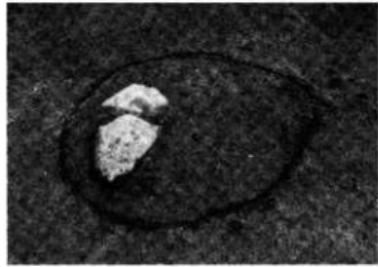
I-B区 捜立柱建物跡



I-A区 1号集石半截状況



I-C区 調査区全景



I-C区 10号土坑検出状況



II区 調査風景

22. 大月遺跡（第10次調査 I・II区）

所在地 大月市大月2丁目11-20外
事業名 県立都留高等学校渡り廊下及びポンプ室建設
調査期間 1996年12月11日～1997年1月29日
調査面積 200m²
担当者 笠原みゆき・伊藤伸一

大月遺跡第10次調査は、県立都留高校の施設建設に先立つ発掘調査で、大月バイパスⅡ区（本線）の発掘調査と並行しておこなわれた。本



大月遺跡 位置図

遺跡は昔から周知の縄文中期～後期・奈良～平安時代末にかけての集落遺跡であり、数度に渡って発掘調査がおこなわれている。今回の調査区は、第3次調査区（都留高校南館）の南西隅から第6次調査区（体育館）まで渡り廊下を取り付ける工事と、第6次調査区（体育館）北西隅・第9次調査区（大月市教育委員会）北側の隣接地にポンプ室を建てる工事の2ヵ所でおこなった。この調査では、便宜的に前者をI区（渡り廊下）、後者をII区（ポンプ室）として報告する。学校施設の建設に伴っては、平成8年11月頃からグランド整備や投球練習場の建設など様々な工事がおこなわれ、大月遺跡が周知の遺跡であることから、工事以前には立会い調査をおこなっていた。遺跡の中心は、大月保育園から体育館周辺にあり、その縁辺を確かめるための立会い調査であったが、想像以上に建物の基礎工事が深く広がっており、多少の遺物が回収出来た以外は、何ら特質すべきものは確認できなかった。そのため、当調査区もこの影響下にあるものと考えていた。

調査の結果、I区（渡り廊下）では、竪穴住居跡2軒・配石造構1基・土坑3基・焼土範囲1基などが発見された。1号住居跡は全体の1/4程度で残りは調査区外である。縄文時代中期末曾利Ⅲ式の完形土器が2個体と、南北に軸を持つ石囲い炉が発見されている。また、北壁側に長さ44cm、幅12cmの平石が立てられるように埋められ、住居内祭祀の可能性が窺われ、遺物も炉からこの石の周辺に特に集中していた。調査面積が狭いため十分な資料が得られず、埋甕も確認することができなかった。2号住居跡は、埋甕と一辺1m四方の大型の石囲い炉のみである。明確な柱穴は判らないが、周辺の小穴群を見ると炉を取り囲むようである。これらを、参考に住居跡の規模を復元してみると、長径8m・短径6m程の楕円形になるとおもわれる。埋甕は縄文時代中期末曾利Ⅱ式である。

II区（ポンプ室）では、第6次調査区の北西側に隣接する部分で、ここから配石造構や敷石住居跡が検出されている経緯から、遺構の密度の高さが指摘されていたが、電柱などの掘削が激しく、土坑1基・溝1条・小穴数基が発見されたのみである。遺物は、調査区の全体から出土していたが、いずれも小破片で特筆すべきものは出土していない。



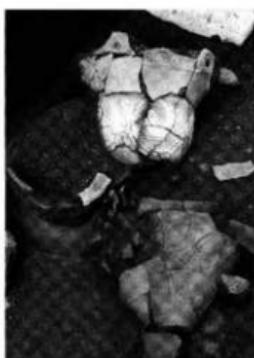
I区 調査区風景



I区 1号配石遺構検出状況



I区 2号住居跡埋甕 検出状況



I区 1号住居跡出土遺物



I区 2号住居跡炉 完壠状況



II区 調査風景

23. 塩瀬下原遺跡

所在地 大月市梁川町塩瀬842-2番地外

事業名 桂川流域下水道終末処理場建設

調査期間 1996年5月15日～12月26日

調査面積 6.320m²

担当者 吉岡弘樹・大庭 勝

忍野村の忍野八海を源として相模湾に下る桂川は、大月市地内においては国道20号に沿う様に流下し、右岸に大規模な河岸段丘を形成させている。この段丘中位（海拔約237.5m）に塩瀬

下原遺跡が存在する。この周辺には今まで他遺跡の存在は確認されていなかったが、最近では、大月市立梁川小学校内において縄文時代と考えられる土壙等が調査されている。また、対岸に武田氏の狼煙台跡とされる御前山が鎮座し遠跡地を凝視しており、当地が戦国期の連絡中継地の要衝であったことがうかがわせている。

昨年度までの調査では、2面の文化層が確認され平安時代堅穴住居跡ほか、縄文時代中期の配石群・屋外炉・石器製作跡・土壙群・集石土壙等が検出されている。

今年度の発掘調査の結果、検出された遺構・遺物は以下のとおりである。

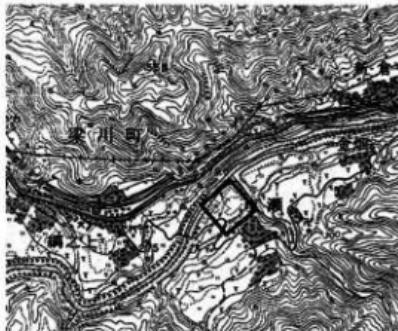
〔Ⅲ区〕 当調査区は遺跡の北東端に当たり、配石群が形成される疊層の落ち込みがみられる地点である。遺構検出面は、表土直下にあたるため擾乱や耕作による削平を多く受けており、遺構等の検出は希薄であった。このため、縄文時代中期後半の土壙3基・埋壺3基が検出されたに過ぎない。遺物は縄文時代中期中葉から末葉までを主体とした各種の土器類・石器類（打製石斧・磨製石斧・石鎌・スクリーパー・石核など）が出土している。

〔Ⅳ区〕 Ⅰ区の西側に隣接した位置にあり、2面の文化層が確認された。

第1面は縄文時代中期末葉の堅穴住居跡3軒と縄文時代中期末葉から後期中葉に比定できる配石群を主体としており、調査区北西に位置する直径約3.5mの正円形を呈する7号配石は3基の石棺（0.8×1.5m）を伴うものとして特筆される。第2面からは縄文時代中期の配石8基・屋外炉6基・埋壺5基等が検出された。それぞれの遺構は自然疊層を利用したもので調査区の全体に広がり、各所に石皿（未製品を含む）を配置している。

遺物は、縄文時代中期中葉から後期中葉までの土器各種、石器類（打製石斧・磨製石斧・石鎌・スクリーパー・石核・石棒など）が出土している。

今年度の調査結果から、河岸段丘の中位部分を利用した配石群の中心が確認できたことと共に、昨年度検出されなかった配石群と同時期の住居跡が確認されたことは遺跡の性格を知る大きな手がかりとなるであろう。



塩瀬下原遺跡 位置図



IV区 完掘状況（東方より）



配石基群 検出状況



4号配石 検出状況



7号屋外炉 完掘状況



土壤 調査風景

24. 八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査

平成8年度以降の各種土木事業（中部横断自動車道を除く）に先立つ、埋蔵文化財の試掘確認調査は以下のとおり実施した。

24-1. 清里遺跡

石堂遺跡

所在地 北巨摩郡高根町清里3545

北巨摩郡大泉村西井出石堂

事業名 清里高原有料道路建設
(県道路公社)

調査期間 1996年4月24日～7月12日

調査面積 清里遺跡 2,000m² (45,000m²)
石堂遺跡 500m² (10,000m²)

担当者 森原明廣・小林広和

清里高原有料道路建設予定地について、その対象面積の約5%を目安とした試掘調査を実施した。トレーニチは幅2m、長さ20～200mとし、建設予定地のほぼ全域を対象とした。

試掘調査の結果、高根町清里地内にて約2,600mの範囲に広がる縄文時代早期の土器・石器の分布域が確認され、事前の発掘調査の必要があるものと判断された。しかし、これ以外の地点には遺物・遺構の分布は全く見られず、発掘調査の必要はないものと判断された。

なお、高根町清里地内の発掘調査地については、遺跡名を「清里バイパス第2遺跡」とし、平成8年度中に発掘調査が実施されている。



清里遺跡・石堂遺跡 位置図



試掘調査風景



試掘調査風景

24-2. 富士見一丁目遺跡

所在地 甲府市富士見一丁目1-1
事業名 県立中央病院建設（県厚生部）
調査期間 1996年7月17日～7月24日
調査面積 20m² (10,000m²)
担当者 森原明廣・小林広和

調査は既存施設敷地内という条件下であったために、狭小な面積（幅1m×5mのトレンチを合計4地点のみ設定）を調査する形となった。各トレンチからは地表下約150～170cmより中世の陶器類が出土し、さらに下層からは平安時代の土器片も出土している。周辺の微高地地形を併せ考えると、中世を主体とする遺跡が存在する可能性が高く、事前の発掘調査の必要があるものと判断された。



富士見一丁目遺跡 位置図

24-3. 八田畠遺跡

所在地 中巨摩郡檍形町八田畠1231-1
事業名 県営檍形小笠原閉地建設（県土木部）
調査期間 1996年7月25日～8月19日
調査面積 700m² (13,000m²)
担当者 森原明廣・小林広和

建設予定地はグランド用の整地がなされており、地表下50cm程度までは人為的な盛土が確認されたが、下層には自然堆積層が残存しており、その一部に見られる黒色土層中に弥生時代中期～後期の土器片を包含することが確認された。試掘調査では明確な遺構は確認されなかったものの、該期の遺構が存在する可能性が高く、事前の発掘調査の必要があるものと判断された。なお、発掘調査の対象面積は建設予定地の一部、約3,000m²となる。



八田畠遺跡 位置図

24-4. 上野原郵便局遺跡

所在地 北都留郡上野原町上野原地内
事業名 上野原郵便局建設（郵政省）
調査期間 1996年9月9日～9月10日
調査面積 100m² (2,800m²)
担当者 吉岡弘樹・大庭 勝

郵政省上野原郵便局の建設予定地について、試掘調査を実施した。調査予定地内に残存するコンクリート基礎などを避け、幅約1.2m、長さ約5～22mのトレンチを8地点設定した。調査の結果、調査区の一部では地表下約0.6～1mに見られるローム層まで良好な自然堆積層が見られる箇所があるものの、遺物・遺構は存在しないことが判明し、それ以外の地点でもコンクリート基礎がローム層真上まで及んでいる箇所が大半であった。全トレンチからの出土遺物は打製石斧片が1点と希薄であり、事前の発掘調査の必要はないものと判断された。



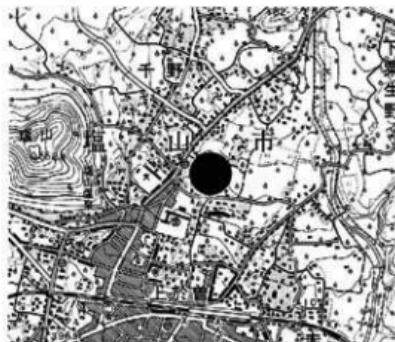
上野原郵便局遺跡 位置図

24-5. 伊保水遺跡

所在地 咸山市千野字伊保水
事業名 県立産業技術短期大学建設（県商工労働観光部）
調査期間 1996年12月9日～12月20日
調査面積 500m² (19,000m²)
担当者 森原明廣・小林広和

県立産業技術短期大学の建設予定地について試掘調査を実施した。

調査は幅1m、長さ5～30mのトレンチを合計35箇所に設定して行なった。調査の結果、建設予定地のほぼ全域から縄文時代中期初頭・平安時代・中世の遺物の出土が確認された。しかし、全体的にはその密度は極めて希薄であり、事前の発掘調査を必要とする箇所は建設予定地の一部である約3,000m²の範囲に限定できるものと判断された。なお、この地点については縄文・平安・中世の遺物のほか中世の溝状造構なども確認されている。



伊保水遺跡 位置図

25. 中部横断道予定地内試掘調査

所在地 中巨摩郡八田村野牛島
調査期間 1997年1月31日～2月20日
調査面積 約420m²（約4,000m²）
担当者 小林健二・雨宮信仁

調査は、道路建設予定地内の2地点に幅1.5～2.5m、長さ8～30mのトレンチを合計16箇所設定し、重機による掘削及び人力による精査を行った。調査の結果、北側の9箇所、南側の4箇所のトレンチにおいて、深さ60cm前後で中世後半期の遺物包含層が確認された。さらに北側の9箇所では包含層下の造構確認面（深さ70cm前後）から溝状造構や土坑、ピット群が発見された。遺物はかわらけ、擂り鉢、天目茶碗などが出土し、特に北側調査地点については、地元で「北屋敷」と呼ばれる一帯の西側にあたるとみられ、これに関わる造構の可能性もあり、今後本調査の必要がある。遺跡名は「石橋北屋敷遺跡」である。



中部横断道予定地内試掘調査 位置図

Ⅲ 県内の概況

1. 発掘調査 今年度の発掘調査件数は196件となっており、昨年度より41件増えている。内訳は緊急調査190件、学術調査6件である。調査件数は平成7年度から150件を越えていて、今年度は200件に近づいている状況である。発掘調査の原因別は、多い順にみると、住宅・宅地造成61件、道路39件、その他建物32件、農業関連18件、その他開発16件、工場9件、学校6件、河川3件、公園造成2件、ガス・電気・水道1件、区画整理1件、遺跡整備1件で、昨年度とはほぼ同じ順序であり、また学術目的の調査は6件となっている。

2. 遺跡の保存整備 これにかかる調査は、まず県教育委員会によって平成2年度から、発掘調査が進められている県史跡甲府城跡がある。この調査や保存整備が進むにしたがって、天守閣建設について世論がもちあがっており、これに並行して築城時に建立されたかどうかの調査も進められている。また、県史跡岩殿城跡でも総合学術調査の一貫として発掘調査が実施されている。富士吉田市では古田口登山道が文化庁による「歴史の道」に選定され、5カ年計画で整備するために発掘調査を行ない、一字一石經の出上を確認した。

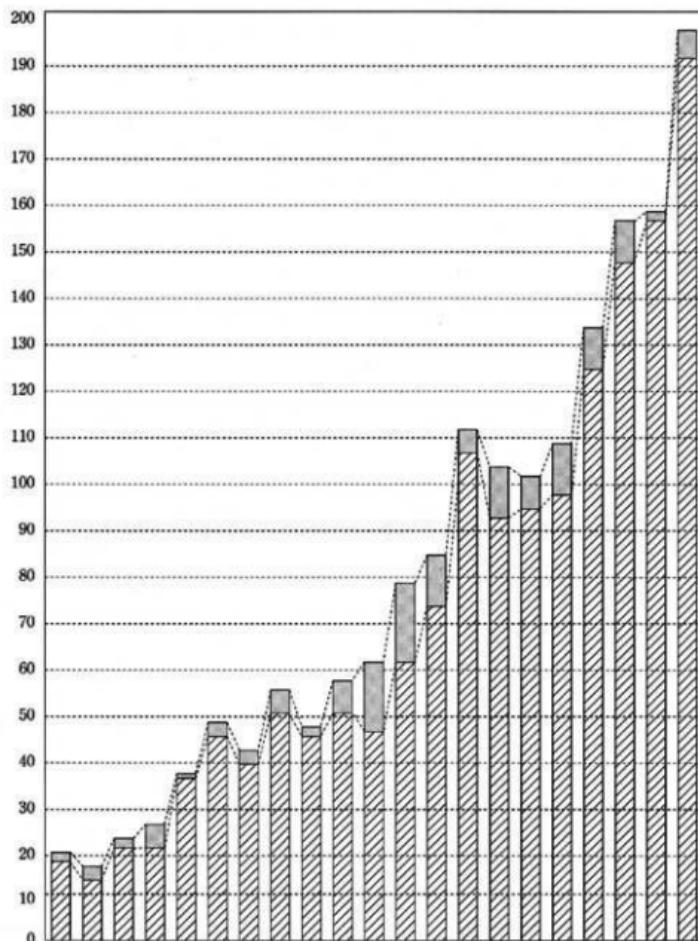
3. 調査体制 埼蔵文化財専任職員（埼蔵文化財担当及び担当可能職員）については、県が学術文化課3名（他に博物館関係1名）、埋蔵文化財センター34名（他に非常勤嘱託2名）、考古博物館2名（他に非常勤嘱託1名）、なお阪神淡路大震災復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査支援職員として4月より埋蔵文化財センターから1名派遣されている。市町村では甲府市7名、御坂町2名（他に教育委員会外に1名）、韭崎市（他に非常勤嘱託1名）・都留市・塩山市・山梨市・春日居町（資料館兼務）・勝沼町・牧丘町・石和町・中道町・境川村・豊富村・八代町・一宮町（他に駒込堂博物館に1名）・三ヶ町・増穂町・柳形町・甲西町・白根町・敷島町・竜王町・双葉町・大泉村・須玉町・長坂町（他に非常勤嘱託1名）・明野村・高根町・武川村・白州町・上野原町に各1名、また大月市の郷土館に2名、富士吉田市の歴史民俗資料館等に2名が、若草町と昭和町の共同設置で1名と小瀬沢町で教育委員会外に1名の合計43名（9名）となっており、64市町村のうち36市町村に配置されている。発掘調査の担当職員の配置は、年々充実しているが発掘件数の増加により、担当職員の1人あたりの事業量が多くなっている傾向が続いているため、整理体制が不十分となり、報告書の刊行や出土遺物の活用が問題となる傾向は続いている。県内の市町村では初めて、明野村によって展示室、整理室、埋蔵庫を備える851m²の埋蔵文化財センターの建設が着手された。

4. 発掘調査の成果 繩文時代では、昨年度に引き続き開削された長坂町酒井堀遺跡から、十棒が出土した。また、弥生時代になると柳形町十五所遺跡から方形周溝墓18基が確認され、その中の一つは主体部がみられ、その周間に6つの四角い柱穴を伴い“もがり”に結びつく上層が存在した可能性が高いと話題を呼んだ。敷島町金の尾遺跡からは、弥生時代末から古墳時代初頭にかけての、本県では数少ない壺棺の好例が出土している。上野原町狐原遺跡の調査で、「山」の字を彫った類例の少ない鉄製の焼きコテが平安時代の住居跡から出土し、目を引いた。鷹沢町の鷹沢河岸跡の調査で、近世から近代にかけての富士川舟運に關係した施設が発見された。

(註) 1.3は教育庁学術文化課の統計調査による。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移

(単位:件)



1996年度発掘調査一覧表

(学術文化課に提出された発掘通知による)

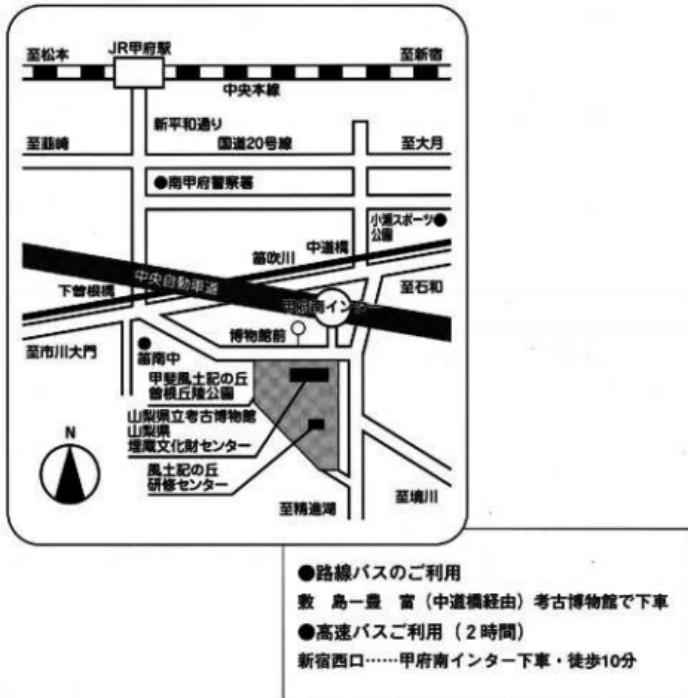
No.	調査地名	所在地	面積(㌶)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
1	神明宮	市原市御前崎町田上東山78-1地	1.87	墓地	近世	「歴」	市原市教育委員会	1996.5.1~1996.6.1
2	かすみ堀	中日電気河内町小里坂75-2地	2.20	その他(耕作跡(築))	近世	宅地	鶴見町教育委員会	1996.5.15~1996.5.17
3	一の丸跡	東八代郡御前崎町小里坂75-2地	3.00	墓地	歴史	「歴」	鶴見町教育委員会	1996.4.22~1996.5.2
4	清水池跡	東八代郡御前崎町小里坂75-1地	4.5	墓地	歴史	「歴」	鶴見町教育委員会	1996.4.15~1996.4.17
5	石畠塚跡	東八代郡御前崎町小里坂75-1地	15.89	その他(墓(墓室))	平安	「歴」	鶴見町教育委員会	1996.4.20~1996.5.17
6	長尺中池跡	東八代郡御前崎町小里坂75-2地	1.24	墓地	平安	「歴」	鶴見町教育委員会	1996.4.24~1996.4.25
7	西門寺跡	中日電気河内町小里坂75-1地	1.16	墓地	平安	「歴」	鶴見町教育委員会	1996.4.11~1996.4.12
8	中津波古墳	中日電気河内町小里坂75-1地	10.00	古墳	古墳	公選地盤	市原市教育委員会	1996.4.22~1997.3.31
9	美山古墳群	東八代郡御前崎町下山178-1地	1.45	その他(墓)	古墳	「歴」(ユーラクノ古墳)	山岸教育委員会	1996.4.15~1996.4.20
10	村野大塚(II・VR)	中日電気河内町十五所村東山75-1地	17.85	墓地	平安	「歴」	山岸教育委員会	1996.4.19~1996.12.27
11	十五所塚跡	中日電気河内町十五所村東山75-1地	12.00	墓地	平安	「歴」	山岸教育委員会	1996.4.8~1996.12.25
12	中門跡	中日電気河内町小里坂75-1地	7.00	墓地	平安	公園	山岸教育委員会	1996.4.15~1997.3.31
13	「聖母」学校跡	北山町上野原町上野原75-3地	82.3	敷地	歴史	学校	上野原町教育委員会	1996.4.15~1996.6.20
14	一所塚跡	鬼塚町本郷75-1地	10.00	墓地	平安	「歴」	山岸教育委員会	1996.4.15~1996.6.28
15	西丘塚跡	北山町本郷75-1地	21.50	墓地	平安	「歴」	山岸教育委員会	1996.4.15~1996.9.9
16	の矢塚跡	鬼塚町見附林小里坂13	2.68	墓地	歴史	「歴」	鬼塚町教育委員会	1996.5.20~1996.5.26
17	本原塚跡	東八代郡御前崎町下山267	6.61	墓地	平安	「歴」	鬼塚町教育委員会	1996.5.5~1996.5.10
18	乙石塚跡	東八代郡御前崎町小里坂75-2地	5.94	墓地	歴史	「歴」	鬼塚町教育委員会	1996.4.15~1996.1.26
19	古越もよろ	鬼塚町御前崎下山267-1地	5.57	墓地	平安	「歴」	鬼塚町教育委員会	1996.4.15~1997.3.31
20	宮の前跡	北山町本郷75-2地	4.90	墓地	歴史	「歴」	山岸教育委員会	1996.4.15~1996.7.15
21	大月跡	大月市大月1-11-2地	8.00	墓地	歴史	「歴」(下水処理場)	山岸教育委員会	1996.4.15~1997.3.31
22	鬼塚下山跡	大月市鬼塚75-2地	5.00	墓地	歴史	「歴」	山岸教育委員会	1996.4.15~1996.6.17
23	石臼跡	北山町本郷75-2地	10.00	墓地	歴史	「歴」	山岸教育委員会	1996.4.15~1996.6.18
24	浦山跡	北山町御前崎75-2地	4.50	墓地	歴史	「歴」	山岸教育委員会	1996.4.15~1996.7.24
25	浦山(ハラス)第1遺跡	北山町御前崎75-1地	30.00	その他(耕作跡)	歴史	「歴」	大月市教育委員会	1996.5.7~1996.9.30
26	大川ヶ原跡	大月市御前崎75-1地	4.58	墓地	平安	「歴」	大月市教育委員会	1996.5.7~1996.9.30
27	大網田原遺跡	北山町御前崎75-1地	3.00	敷地	歴史	「歴」	大月市教育委員会	1996.5.1~1996.5.10
28	大馬ばね山平塚跡	東八代郡御前崎町小里坂1888	2.00	墓地	歴史	「歴」	鬼塚町教育委員会	1996.5.7~1996.5.21
29	甲原四谷・立跡	東八代郡御前崎町小里坂1888	12	社會	平安	「歴」	鬼塚町教育委員会	1996.4.72~1996.5.21
30	身先大塚跡	東八代郡御前崎町小里坂1888	7.73	墓地	平安	「歴」	八代町教育委員会	1996.5.7~1996.6.28
31	新浜川跡	北山町御前崎75-1地	10.00	その他(耕作跡)	歴史	「歴」	大月市教育委員会	1996.5.1~1996.6.30
32	東原古墳	北山町御前崎75-1地	1.56	墓地	平安	「歴」	武州教育委員会	1996.5.13~1996.6.20
33	鬼塚古墳	中日電気河内町小里坂1-57-2地	2.00	墓地	歴史	「歴」	中日電気河内町教育委員会	1996.5.8~1996.8.9
34	甲ワ原跡	北山町御前崎75-1地	15.00	墓地	歴史	「歴」	大月市教育委員会	1996.4.20~1996.5.21
35	尾伏塚跡	北山町御前崎75-1地	7.67	墓地	平安	「歴」	新浜川教育委員会	1996.6.1~1996.5.8
36	新浜川跡	東山島御前崎町下山267-1地	9.00	墓地	歴史	「歴」	山岸教育委員会	1996.5.13~1997.3.31
37	海辺古墳	北山町御前崎75-1地	4.48	墓地	平安	「歴」	鬼塚町教育委員会	1996.6.70~1996.6.14
38	永井塚跡	北山町御前崎75-1地	—	—	—	—	—	—

No	道 溢 源 名	在 地	面積(га)	流域の特徴	開発の時代	開発日 期	測量主任者	測量委員会
39	下新田沢	北巨摩郡大槻町山口4-1地	1238	散布地	國文 平安	農業地	大槻村教育委員会	1986.5.15~1986.6.20
40	石神谷川源頭部	東八代郡石神谷町三橋 3地	1065	散布地	承平 安平	学校	山県教育委員会	1986.6.20~1987.3.31
41	下以久瀬	北巨摩郡御所村小笠原山野町229-1	—	散水地	生仁 幸也	農業地	御所村教育委員会	1986.5.29~1986.5.31
42	御ノ木源頭	北巨摩郡御所村小笠原山野町1201	—	散布地	國文	その他の地物 (開拓地) (未測定)	御所村教育委員会	1986.5.13~1986.6.20
43	弓の木源頭	北巨摩郡御所村小笠原山野町1229-1	—	散布地	國文	その他の地物 (開拓地) (未測定)	御所村教育委員会	1986.5.13~1986.6.20
44	弓の木源頭	北巨摩郡御所村小笠原山野町1086	—	散布地	國文	その他の地物 (開拓地) (未測定)	御所村教育委員会	1986.5.13~1986.6.20
45	金坂川源頭	北巨摩郡御所村小笠原山野町3545-451	1000	散布地	國文	その他の地物 (開拓地) (未測定)	御所村教育委員会	1986.6.1~1987.3.31
46	下東源頭	北巨摩郡御所村小笠原山野町1033-1	—	散布地	國文 幸也	農業地	御所村教育委員会	1986.6.15~1986.6.16
47	下東源頭	北巨摩郡御所村小笠原山野町32-1	—	散布地	國文 幸也	その他の地物 (アパート)	御所村教育委員会	1986.6.1~1986.6.20
48	朝立源頭	東八代郡 200竹田町上ノ門町1-1	198	散布地	國文 幸也	工場	一ノ門教育委員会	1986.6.1~1986.6.20
49	扇原八幡源頭	相模原市川崎市宮前町3567-8番	2000	散水地	國文	その他の地物 (オーナメント等)	相模原教育委員会	1986.6.10~1987.3.31
50	古林原・源頭	相模原市大和泉町新井59-1	100	散水地	國文	農地	大和泉教育委員会	1986.6.1~1986.6.11
51	百舌鳥源頭	相模原市大泉町1873-1地	100	散水地	國文	農地	大和泉教育委員会	1986.5.10~1986.9.26
52	土所源頭	相模原市大泉町新井59-1	—	散水地	國文 幸也	その他の地物 (ドクダミ等)	大和泉教育委員会	1986.6.17~1986.12.25
53	今之尾源頭	相模原市大泉町下今之尾457-1地	3000	集落地	國文 幸也	住宅地	大和泉教育委員会	1986.6.15~1986.10.14
54	相原川・源頭	相模原市大泉町新井5259-3地	4545	散布地	國文	その他の地物 (文化施設)	相模原教育委員会	1986.6.24~1986.7.31
55	利根川源頭	中和郡青井町西河原町107地	4620	散布地	國文 幸也	牧場	甲斐郡教育委員会	1986.6.28~1986.8.20
56	新吉之木源頭	中和郡青井町幸子2-310-1	585	散布地	國文	住宅地	甲斐郡教育委員会	1986.6.7.1~1986.9.26
57	新吉原源頭	中和郡青井町幸子1-1	316	散水地	國文	住宅	甲斐郡教育委員会	1986.6.17~1986.6.26
58	同分古瀬源頭	中和郡青井町幸子2-310-2	837	散水地	國文	住宅	甲斐郡教育委員会	1986.6.17~1986.9.26
59	大月鹿神	大月市大月2-10	426	集落地	國文 幸也	道路	大月町教育委員会	1986.7.1~1986.8.31
60	つきもと川源頭	中巨摩郡笛吹町上今宿1325-3	515	古墳	國文	古墳	白隠郡教育委員会	1986.7.14~1986.9.26
61	宮代山川源頭	中巨摩郡笛吹町上今宿1325-1	200	社寺跡	國文	道路	中巨摩郡教育委員会	1986.7.11~1986.12.20
62	新川坂越源頭	中巨摩郡笛吹町上今宿1484-1	259	散布地	國文 幸也	集落	中巨摩郡教育委員会	1986.8.11~1986.11.26
63	新川源頭	中巨摩郡笛吹町上今宿5-285-4	94	散水地	國文 幸也	集落	中巨摩郡教育委員会	1986.8.10~1986.11.25
64	新穴川源頭	中巨摩郡笛吹町上今宿555地	4	貧农地	國文	住宅地	中巨摩郡教育委員会	1986.6.26~1986.7.15
65	新水河畔	相模原市南陽町水原484地	1000	散水地 (開拓地)	國文	河川	山梨教育委員会	1986.7.1~1986.8.31
66	高砂川源頭	相模原市南陽町水原484地	976	散水地	國文	住宅地	相模原教育委員会	1986.7.1~1986.7.24
67	高士見(「」)川源頭	中巨摩郡笛吹小笠原八幡町123-1	1000	散布地	國文	その他の地物 (耕作)	山梨教育委員会	1986.7.17~1986.8.19
68	八田坂源頭	中巨摩郡笛吹小笠原八幡町122-1	—	散布地	國文	住宅	山梨教育委員会	1986.7.17~1986.8.19
69	大石切源頭	北巨摩郡笛吹町山野町5812-1	494	散布地	國文	住宅	山梨教育委員会	1986.6.10~1986.6.26
70	利井源頭	北巨摩郡笛吹町山野町1047-1	1499	散布地	國文	住宅	山梨教育委員会	1986.6.11~1986.6.26
71	大久保源頭	北巨摩郡笛吹町山野町1047-1	3000	散水地	國文 幸也	道路	長野郡教育委員会	1986.6.1~1987.3.31
72	第2農業開拓地	東八代郡御所町山口120地	3029	散布地	不明	道路	東八代郡教育委員会	1986.7.16~1986.7.31
73	柳原北源頭	北巨摩郡笛吹町山野町3-274地	1211	散布地	國文	住宅地	中巨摩郡教育委員会	1986.7.17~1986.12.20
74	新川B源頭	北巨摩郡笛吹町山野町520-53	1000	散水地	國文	道路 (下水処理)	中巨摩郡教育委員会	1986.8.1~1987.3.31
75	利井源頭	北巨摩郡笛吹町山野町520-53	1186	散布地	國文 幸也	その他の地物 (保育園)	中巨摩郡教育委員会	1986.7.8~1986.7.19
76	新川B(2番)源頭	北巨摩郡笛吹町山野町5545	2000	散水地	國文	道路	中巨摩郡教育委員会	1986.7.22~1986.9.26
77	中里田分合計源頭	東八代郡御所町山口120地	601	散水地	國文 幸也	その他の地物 (道路)	中巨摩郡教育委員会	1986.7.22~1986.9.26
78	新森源頭	東八代郡御所町山口120地	150	散布地	國文	道路	中巨摩郡教育委員会	1986.8.12~1986.8.27

No	通路名	所 在 地	面積(m ²)	走る種類	通過の時代	測量目的	測量主任者	測量委員会
70	新宿駅敷地	山根町東原町新宿駅前 2	533 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/20	山根町教育委員会	1966/8/7~1966/6/20	1966/8/7~1966/6/31
80	新宿北道	中野区歌舞引町新宿駅前 07-2	200 敷地	中世・近世 その他の建物(ケアハシ)	1966/8/7~1966/6/31	新宿町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
81	久保通路	北野坂筋上野原町久保通 1	397 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	長野県教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
82	真鍋通路	北野坂筋上野原町新宿 3	319 敷地	南北+矢打古墳	1966/8/7~1966/6/31	上野原町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
83	角田通路	北野坂筋上野原町新宿 1	95 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	[新宿教育委員会]	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
84	中野白銀町	中野区白銀町新宿駅前 15G-1	106 敷地	不明	モダニズム	白銀町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
85	竹之花通路	中野区白銀町新宿駅前 15F-1	559 敷地	その他の建物	1966/8/7~1966/6/31	白銀町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
86	秋葉通路	東八丁目町町内井	5000 通路	南北+平洋	1966/8/7~1966/6/31	一社教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
87	西田町通路	東八丁目町町内井	5000 通路	南北+平洋	1966/8/7~1966/6/31	一社教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
88	鶴見通路	東八丁目町町内井 1 横	3000 敷地	南北+矢打古墳	1966/9/1~1966/12/20	鶴見町教育委員会	1966/9/1~1966/12/20	1966/9/1~1966/12/20
89	芦原通路	中野区高円寺北新宿 207-1 他	1277 敷地	南北	1966/9/1~1966/9/29	白羽町教育委員会	1966/9/1~1966/9/29	1966/9/1~1966/9/29
90	御茶ノ水通路	東八丁目町 3306	25 敷地	南北	1966/9/1~1966/9/29	[新宿教育委員会]	1966/9/1~1966/9/29	1966/9/1~1966/9/29
91	天神橋通路	中野区百人塚 4-3301	558 敷地	南北	1966/9/1~1966/6/1	山根町教育委員会	1966/9/1~1966/6/1	1966/9/1~1966/6/1
92	梅本平出通路	梅田草場町山本ビル前	1200 敷地	中世	1966/8/7~1966/6/31	山根町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
93	大野原通路	北白銀町新宿駅前 3315F-12	2000 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	西高旗町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
94	北山通路	北山町新宿駅前 15F-15G-1	345 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	高旗町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
95	霞山通路	北山町新宿駅前 15F-15G-5	375 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	武蔵村山教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
96	山林通路	北山町新宿駅前 15F-15G-1	19 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	明神町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
97	下保谷通路	北山町新宿駅前 1-672	401 通路	南北	1966/8/7~1966/6/31	八王子教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
98	五重原通路	東八丁目町 10F-11F-1	30 通路	南北+平洋	1966/9/1~1966/9/13	山梨町教育委員会	1966/9/1~1966/9/13	1966/9/1~1966/9/13
99	新利根通路	甲府市中央 4	105 敷地	南北	1966/9/1~1966/12/1	山梨町教育委員会	1966/9/1~1966/12/1	1966/9/1~1966/12/1
100	牛野町通路	甲府市牛野町 275 地	233 敷地	南北	1966/9/1~1966/12/1	4号町教育委員会	1966/9/1~1966/12/1	1966/9/1~1966/12/1
101	寺所第 2 駐跡	北山町大字坂井 2865	325 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	山梨町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
102	新宿御苑通路	北野坂筋上野原町新宿御苑	282 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	山梨町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
103	園の上通路	大町御苑御苑の上庭 1-10-1 他	95 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	小月町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
104	美作・長崎通路	北山町御苑町御苑地蔵堂前 38 地	145 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	山梨町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
105	石川山通路	北山町御苑町御苑の前田原由田 108-1	908 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	[新宿教育委員会]	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
106	今神通路	北山町御苑町御苑の前田原由田 108-1	2065 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	今神町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
107	龜角通路	北山町御苑長坂御苑の前田原由田 1-3	921 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	山梨町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
108	新宿 B 通路	中野区歌舞引町新宿駅前 841 敷地	2400 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	中野区教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
109	大聖寺町通路	東八丁目町新宿駅前 621 敷地	36 通路	南北	1966/8/7~1966/6/31	中野区教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
110	金田木原坂通路	東八丁目町 1208-1	690 その他(馬鹿塚)	南北	1966/8/7~1966/6/31	八王子教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
111	通田木原坂	東八丁目町 1208-1	171 通路	南北	1966/8/7~1966/6/31	通田木原坂教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
112	稻田通路	中野区歌舞引町新宿駅前 1-3	1822 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	稻田町教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
113	木の前通路	中野区歌舞引町新宿駅前 1-3	134 敷地	南北	1966/8/7~1966/6/31	中野区教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
114	林野通路	中野区歌舞引町新宿駅前 1-3	2000 通路	南北	1966/8/7~1966/6/31	中野区教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
115	五里塚通路	東八丁目町新宿駅前 1-3	150 通路	南北	1966/8/7~1966/6/31	八王子教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
116	舞川通路	中野区歌舞引町新宿駅前 1-3	200 その他(馬鹿塚)	南北	1966/8/7~1966/6/31	中野区教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
117	舞川河岸路	中野区歌舞引町新宿駅前 1-3	600 その他(馬鹿塚)	南北	1966/8/7~1966/6/31	中野区教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31
118	酒呑木道上	中野区歌舞引町新宿駅前 1-3	2000 通路	南北	1966/8/7~1966/6/31	中野区教育委員会	1966/8/7~1966/6/31	1966/8/7~1966/6/31

No.	通 路 名	所 在 地	面積(㎡)	通路の種別	通路の時代	調査目的	調査主 作者	原 本 附 錄
119	西端通	中江東部町(西野)205-1	596	私道	元世	その他の物(遺物)	白堀町教育委員会	1996/10/15~1996/10/18
120	西神通	中江東部町(西野)内宿町206-1	812	私有地	元世	その他の物(遺物)	「白堀町教育委員会」	1996/10/15~1996/10/18
121	西ノ坂上通	東八代町新町会原入久保116地	1472	古墳	古墳	その他の物(遺物)	「白堀町教育委員会」	1996/10/14~1996/10/18
122	後山通	東八代町新町左(山)116地3-1	150	私有地	新・平成	その他の物(社会施設)	「白堀町教育委員会」	1996/10/11~1996/10/18
123	水井通	北江町那須町手水井町1222-31	1476	私有地	新・平成	その他の物(遺物)	「白堀町教育委員会」	1996/10/10~1996/10/18
124	鬼屋通	西山鬼屋町(山)3丁目	7000	私有路	新・平成	その他の物(遺物)	中江町教育委員会	1996/10/01~1997/3/31
125	北河原通	中江東部半原町(山)北河原109地	5000	私有地	新・平成	その他の物(老(ホー)-ム)	明野町教育委員会	1996/11/1~1996/11/28
126	水山通	東八代町(山)水山町128-1	333	私有地	新・平成	その他の物(住居)	「白堀町教育委員会」	1996/11/11~1996/11/28
127	野鳥通	大木市(山)野鳥久保64-1他	270	私有地	新・平成	その他の物(住居)	大木市教育委員会	1996/11/11~1996/11/28
128	角川電線路	中江東部半原町(山)内宿64-1他	15	私有地	新・平成	口・会・平 道路	中江町教育委員会	1996/10/14~1996/12/31
129	桃子水路	東八代町(山)桃子水路233地	458	私有地	新・平成	桃子水路	八代町教育委員会	1996/11/11~1997/3/31
130	東六代通	西野町本郷通219地	1000	私有地	新・平成	東六代通	中江町教育委員会	1996/11/5~1997/3/31
131	北原谷通路	東八代町(山)北原谷通700地	258	その他の通路(裏路)	新・平成	北原谷通路	一ノ瀬教育委員会	1996/11/19~1997/3/31
132	本郷原谷通路	東八代町(山)本郷原谷通	90	私有地	新・平成	本郷原谷通路	中江町教育委員会	1996/11/11~1996/12/26
133	新町通路	東山新町(山)新町字新町1-2	50	私有地	新・平成	新町通路	中江町教育委員会	1996/11/11~1996/12/26
134	神引通路	東山新町(山)新町字新町1-1	300	その他の通路(裏路)	新・平成	神引通路	中江町教育委員会	1996/11/12~1996/11/26
135	金の尾通路	中江東部新町(山)下金36-1他	354	私有地	新・平成	金の尾通路	中江町教育委員会	1996/11/5~1996/11/26
136	五上通路	北巨摩郡御所町上子734	90	私有地	新・平成	五上通路	中江町教育委員会	1996/11/6~1996/11/22
137	米の前通路	中江東部新町(山)米の前5-1他	267	私有路	新・平成	米の前通路	中江町教育委員会	1996/11/1~1996/11/26
138	鶴田通路	大木市(山)鶴田通上山町1地	300	私有地	新・平成	鶴田通路	中江町教育委員会	1996/11/18~1997/3/31
139	東山通路	東山新町(山)東山字東山1-1	530	私有地	新・平成	東山通路	中江町教育委員会	1996/11/6~1996/11/18
140	扇町通路	北巨摩郡御所町上子734	10	私有路	新・平成	扇町通路	中江町教育委員会	1996/11/20~1996/11/22
141	田代通路	北巨摩郡御所町上子734	350	私有地	新・平成	田代通路	中江町教育委員会	1996/11/21~1996/11/22
142	鬼塚通路	北巨摩郡御所町上子734	304	私有地	新・平成	鬼塚通路	中江町教育委員会	1996/12/4~1997/2/28
143	鬼塚上通路	北巨摩郡御所町上子734-1	1017	私有地	新・平成	鬼塚上通路	八代町教育委員会	1996/12/9~1996/12/11
144	阿原上通路	北巨摩郡御所町上子734-1	400	私有地	新・平成	阿原上通路	中江町教育委員会	1996/12/2~1996/12/25
145	美原原通路	北巨摩郡御所町上子734-1	800	私有地	新・平成	美原原通路	中江町教育委員会	1996/12/1~1997/1/31
146	桂原通路	北巨摩郡御所町上子734-1	43	私有地	新・平成	桂原通路	中江町教育委員会	1996/12/4~1997/2/19
147	鬼柳下通路	北巨摩郡御所町上子734-1	10	私有地	新・平成	鬼柳下通路	中江町教育委員会	1996/12/9~1996/12/15
148	美原・阿原通路	北巨摩郡御所町上子734-1	304	私有地	新・平成	美原・阿原通路	中江町教育委員会	1996/11/11~1997/1/10
149	支走・鬼柳通路	北巨摩郡御所町上子734-1	4700	私有地	新・平成	支走・鬼柳通路	中江町教育委員会	1996/11/29~1996/12/26
150	鬼柳通路	北巨摩郡御所町上子734-1	60	私有路	新・平成	鬼柳通路	八代町教育委員会	1996/12/17~1997/1/31
151	竹原下古道	小林市(山)15-1588-1号	800	古墳	古墳	竹原下古道	中江町教育委員会	1996/12/4~1997/2/19
152	伊都木水路	尾張市(山)伊都木水路	1900	私有地	新・平成	伊都木水路	山県町教育委員会	1996/12/9~1996/12/25
153	鶴原日暮通	中江東部新町(山)日暮85-1	200	敷地地	新・平成	鶴原日暮通	鶴原町教育委員会	1996/12/7~1997/1/10
154	西ノ坂上通路	東八代町新町(山)1223-12	563	古墳	古墳	西ノ坂上通路	八代町教育委員会	1996/12/11~1997/1/15
155	新平坂路	東八代町新町(山)1223-12	60	敷地地	新・平成	新平坂路	中江町教育委員会	1996/12/11~1997/1/15
156	新平坂路	東八代町さとう木原7地	150	私有地	新・平成	新平坂路	八代町教育委員会	1997/2/3~1997/2/21
157	新平坂通路	南八代町新町(山)134-1号1-1他	214	私有地	新・平成	新平坂通路	八代町教育委員会	1997/1/8~1997/2/25
158	城子原通路	北巨摩郡御所町233地	722	私有路	新・平成	城子原通路	八代町教育委員会	1997/1/8~1997/2/25

No.	地名	所在	在地	面積(ヘクタール)	造成の範囲	造成の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
159	大寺町通	豊田市駒場町14番字14-14番字14-253	中野町原野14番字14-14番字14-253	50	施設・官舗跡	明治後半	学術研究	豊田市教育委員会	1987/2/13～1987/3/25
160	本郷通	豊田市大郷町125-1	138 住居地	138	住居地	明治後半 平成	住宅	豊田市教育委員会	1987/2/14～1987/3/31
161	佐久保通	豊田市東郷町15番字15-1157	233 敷地	233	敷地	明文	その他の建物(事務所)	豊田市教育委員会	1987/2/19～1987/2/29
162	上条通	名古屋市東区長野780-1	62 住居地	62	住居地	明文	平安	土地営造	1987/1/20～1987/2/28
163	古町通	名古屋市熱田白川町自47番地37地	400 住居地	400	住居地	明文	平安 中世	農業開拓	1987/2/24～1987/2/28
164	前田通	名古屋市熱田町大字前田60-1番	100 住居地	100	住居地	明文	平安	白川町教育委員会	1987/2/25～1987/2/28
165	柳井通	名古屋市熱田町大字前田60-1番	300 施設地	300	施設地	明文	平安	白川町教育委員会	1986/10/25～1986/3/31
166	別院通	名古屋市東区新栄町10番8-1	456 住居地	456	住居地	明文	平安	白川町教育委員会	1986/10/25～1986/3/31
167	別院支通	名古屋市東区新栄町今池28番	137 住居地	137	住居地	明文	平安	白川町教育委員会	1987/2/27～1987/2/27
168	東町通	名古屋市東区新出山町1番	100 住居地	100	住居地	明文	平安 中世	中野町教育委員会	1987/2/27～1987/2/27
169	上野谷通	名古屋市中区石山1丁目6番11号	500 住居地	500	住居地	明文	平安	中野町教育委員会	1987/2/24～1987/2/28
170	勝沼通	名古屋市西区勝沼町45番地	8 住居地	8	住居地	近世	その他の施設	勝沼町教育委員会	1987/2/17～1987/2/27
171	鳥居通	名古屋市西区勝沼町45-1	348 住居地	348	住居地	明文	平安 工場	勝沼町教育委員会	1987/2/24～1987/3/3
172	北小倉通	名古屋市東区西小倉町1番546番地	656 住居地	656	住居地	明文	中世	白川町教育委員会	1987/2/20～1987/3/31
173	山田C通	名古屋市東区三輪字11359-1	100 住居地	100	住居地	明文	平安	白川町教育委員会	1987/3/7～1987/3/31
174	西ノ宮通	名古屋市東区山手町1番200-1	10 住居地	10	住居地	明文	中世	その他の施設(宿泊)	1987/1/8～1987/1/31
175	和田堀2番通	名古屋市東区和田堀2番地1番2	40 住居地	40	住居地	明文	平安	大野町教育委員会	1986/11/1～1987/3/31
176	白山御用邸通	名古屋市東区西白山御用邸37番地	300 住居地	300	住居地	明文	平安	大野町教育委員会	1986/11/29～1987/3/31
177	城上池3番通	名古屋市東区大野町3番地	400 住居地	400	住居地	明文	平安	大野町教育委員会	1986/11/1～1987/3/31
178	城下河堀町通	名古屋市東区大野町1番350-1号	100 の他の施設(施設)	100	の他の施設(施設)	明文	平安	白川町教育委員会	1987/2/16～1987/3/31
179	筑前町通	名古屋市東区1丁目1番1号	640 住居地	640	住居地	明文	平安	一宮町教育委員会	1987/1/3～1987/3/31
180	天神内通	名古屋市守屋1-131地	944 住居地	944	住居地	上野	平安	中野町教育委員会	1987/2/18～1987/2/25
181	東伏見通	名古屋市守屋1-244番地	50 住居地	50	住居地	近世	その他の施設	八幡町教育委員会	1987/3/5～1987/3/31
182	大寺今寺通	名古屋市守屋1-16番地	40 住居地	40	住居地	明文	平安 宮殿跡	勝沼町教育委員会	1987/3/12～1987/3/31
183	神明通	名古屋市守屋1-16番地	103 住居地	103	住居地	明文	平安	白川町教育委員会	1987/3/10～1987/3/31
184	仲根通	名古屋市守屋1-16番地	1629 住居地	1629	住居地	明文	平安	白川町教育委員会	1987/3/14～1987/3/31
185	柳原通	名古屋市守屋2-107-2	151 住居地	151	住居地	明文	平安	中野町教育委員会	1987/1/12～1987/2/28
186	鶴山通	名古屋市守屋2-1621-31	地圖跡	地圖跡	中世	近世	平安	中野町教育委員会	1987/3/12～1987/3/31
187	牧道通	名古屋市守屋2-1621-1	102 住居地	102	住居地	明文	平安	勝沼町教育委員会	1987/3/11～1987/3/28
188	大寺今寺通	名古屋市守屋1-65番地	110 住居地	110	住居地	明文	平安	白川町教育委員会	1987/3/10～1987/4/15
189	寶原1通	名古屋市守屋1-65番地	1560 住居地	1560	住居地	明文	平安	白川町教育委員会	1987/2/3～1987/2/27
190	本郷通	名古屋市守屋1-65番地	9384 住居地	9384	住居地	明文	平安	一宮町教育委員会	1986/12/25～1987/3/31
191	一の宮通	名古屋市守屋1-65番地	60 住居地	60	住居地	明文	平安	坂井町教育委員会	1987/3/4～1987/3/31
192	宮前通	名古屋市守屋1-65番地	400 住居地	400	住居地	明文	平安	坂井町教育委員会	1986/4/22～1987/3/31
193	桜通	名古屋市守屋1-65番地	1000 住居地	1000	住居地	明文	平安	坂井町教育委員会	1986/4/22～1987/3/31
194	七之坪通	名古屋市守屋1-65番地	4000 住居地	4000	住居地	明文	平安	坂井町教育委員会	1986/8/10～1987/3/31
195	大寺通	名古屋市守屋1-65番地	200 住居地	200	住居地	明文	平安	坂井町教育委員会	1986/12/10～1987/3/31
196	中郷通	名古屋市守屋1-65番地	4000 住居地	4000	住居地	明文	平安	坂井町教育委員会	1987/2/3～1987/2/27



年 報 13

印刷日 平成9年3月25日

発行日 平成9年3月31日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根923
TEL0552-66-3881・0552-66-3016
FAX0552-66-3882

印刷所 株式会社 少国民社
TEL0552-26-2125

